

秋田の活力と発展のシンボルとしての  
**スポーツ振興**

# 秋田県スポーツ振興基本計画

## ～「スポーツ立県あきた」推進プラン～



平成22年3月

**秋田県**

## はじめに

平成19年に開催された第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」では、県内全25市町村において、2万5千人を超える選手・監督・役員の参加の下、1万6千人のボランティアの支援と60万人を超える観客の声援、そして県民総参加の一人一役の協力を得て、悲願であった天皇杯・皇后杯を初めて獲得し、県民に大いなる感動と勇気を与えてくれました。

また、本県では、スポーツを秋田の活力と発展のシンボルとして、スポーツを通じた秋田の元気づくりと地域の活性化、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくり、競技力の向上など、スポーツ振興を県民運動として展開するとともに、スポーツ王国復活に向けた取組を強化するため、平成21年9月2日に「スポーツ立県あきた」を宣言しました。

スポーツは、爽やかさや楽しさ、喜びをもたらすとともに、体力の向上や病気の予防、人格形成など心身両面の健康づくりに役立ちます。また、スポーツは、協調と連帯の心をはぐぐみ、ルール、マナー等を守る意識を高めるとともに、多様なネットワークを生み出し、お互いの「絆」を強くします。さらに、スポーツは、夢とその実現に向けて突き進む勇氣、困難を乗り越える力をはぐくむとともに、人々に感動と誇りを、地域に活気と賑わいをもたらし、明るく豊かで活力に満ちた社会を創造します。

こうしたスポーツが持つ魅力を踏まえ、「スポーツ立県あきた」推進のための施策を体系的・計画的に展開するため、秋田県スポーツ振興審議会、秋田県議会、各関係団体等をはじめとする多くの皆様から広く御意見をいただきながら、このたび「秋田県スポーツ振興基本計画～『スポーツ立県あきた』推進プラン～」を策定しました。

本計画では、「生涯スポーツの振興」、「競技スポーツの振興」、「子どものスポーツ活動の充実」、「スポーツ環境の充実」及び「スポーツ振興による地域の活性化」の5つを柱として掲げ、それぞれの「目標」と「施策」、そして「計画実現に向けた体制とスケジュール」等を示しています。

県では今後、「スポーツ立県あきた」の具現化に向けた取組を強力に推進してまいりますので、県民の皆様をはじめ、市町村、学校、関係機関・団体、企業、メディア等におかれましても、それぞれの立場での主体的な取組を進めてくださるよう強く願う次第です。

終わりに、本計画策定にあたり御尽力いただきました秋田県スポーツ振興審議会委員の皆様をはじめ、貴重な御意見をお寄せいただきました県民の皆様方、また、多くの関係の方々から心から感謝申し上げます。

秋田県知事  
佐竹敬久

# 目次

## はじめに

第Ⅰ章 計画策定にあたって	1
1 スポーツ振興の意義と役割	1
2 本県の現状	1
3 「スポーツ立県あきた」宣言	5
4 本計画策定の趣旨及び位置づけ	7
5 計画の期間	7
6 計画に掲げる施策の推進に必要な財源の確保	7
7 計画のめざす姿	8
第Ⅱ章 「スポーツ立県あきた」推進のための取組	9
1 生涯スポーツの振興	9
☆県民の健康で生きがいのある生活を創るスポーツ活動の充実を図ります。	
(1)総合型地域スポーツクラブの設立・育成の推進	9
(2)広域スポーツセンター機能の充実	10
(3)高齢者スポーツの振興	11
(4)障害者スポーツの振興	12
(5)健康づくり運動の推進	13
(6)地域で活躍できる指導者・スタッフの育成	14
2 競技スポーツの振興	15
☆県民に夢や希望を与えるアスリートの育成を進めます。	
(1)選手の夢をはぐくむことができる指導者の確保・育成	15
(2)国内外のひのき舞台上で活躍できるアスリートが育つ選手強化体制の整備・拡充	16
(3)スポーツ医科学を活用した競技力向上支援システムの確立	18
3 子どものスポーツ活動の充実	19
☆健やかな子どもをはぐくむ学校体育・スポーツ活動の充実を図ります。	
(1)学校体育の充実	19
(2)子どもの体力・運動能力の向上	20
(3)スポーツ活動ができる環境の充実	22
4 スポーツ環境の充実	24
☆県民のスポーツ活動を支える組織の充実・施設の活用を図ります。	
(1)スポーツ振興のための体制整備	24
(2)スポーツ振興を支える組織の充実・連携やボランティア団体の育成	25
(3)県内スポーツ施設の有効活用・充実	26
(4)スポーツ振興に尽力された方の表彰制度の整備	27
5 スポーツ振興による地域の活性化	27
☆スポーツを通じた秋田の元気づくり・活力の創出に努めます。	
(1)プロスポーツ、スポーツビジネス、クラブチームの振興	27
(2)スポーツを通じた秋田の情報発信	29
(3)スポーツを活用した地域づくり	30
第Ⅲ章 計画実現に向けた体制とスケジュール	31
1 計画実現に向けた体制	31
2 計画推進に向けた広報	31
3 計画実現に向けた各施策のスケジュール	32
4 計画実現を担う主役は県民のみなさん	35
<資料>	37
○用語等解説	37
○第23期秋田県スポーツ振興審議会 諮問文・委員名簿	41
○秋田県スポーツ振興基本計画策定までの経過	44

# 第Ⅰ章 計画策定にあたって



## 1 スポーツ振興の意義と役割

近年、人々のライフスタイルに対する価値観が多様化する中、少子高齢化の進行や自由時間の増加等に伴い、心の豊かさやゆとりを実感できる生活や生きがいなどをこれまで以上に重視するようになってきている。

一方、科学技術の高度化や情報社会の進展による生活様式の変化から、日常生活で身体を動かす機会が少なくなり体力が低下したり、人間関係の希薄化から精神的ストレスが増大したりするといった心身両面にわたる健康上の問題も大きくなってきている。

こうした中、健康志向の高まりなどからもわかるように、スポーツが人間にとって大切な活動であることが広く認識されるようになってきている。

スポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要な不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは大変有意義なことである。また、スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や、楽しさ喜びをもたらし、更には、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に大きな役割を担っている。

また、オリンピックをはじめとする国内外の各種大会におけるトップアスリートの活躍は、人々に夢と希望を与えるとともに、プロスポーツやトップレベルのクラブチームの地域への定着は、住民意識の一体化や新たなスポーツビジネスが生まれるなど、地域の活性化と賑わいの創出にもつながるものである。

人間とスポーツの関わりには、スポーツを自ら行うことのほかにも、スポーツをみて楽しむことや、運営スタッフや指導者としてスポーツを支援することもある。

いわゆる「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」といったスポーツへの参加形態の多様性は、すべての人がスポーツへの多様な関わりを通じて、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を可能にしていくものであり、スポーツ振興を総合的かつ積極的に推進することは、本県の発展を考える上で極めて大きな意義がある。

## 2 本県の現状

### 【県人口について】

本県においては、人口の減少及び少子高齢化が深刻な問題であり、今から10年後

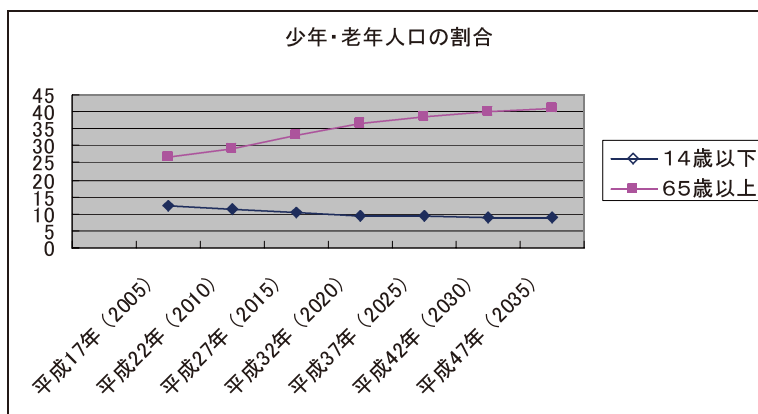


図1 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(H19.5)より

の平成32年には、県の人口が100万人を割り込むとともに、人口に占める14歳以下の割合は9.6%になるという試算(国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」H19.5)が示されるなど、県全体の活性化に影響を及ぼすことが予想される。





【県民の運動・スポーツの実施状況等について】

県教育委員会で行っている「運動・スポーツ実施状況調査」(平成20年度：20歳以上の男女対象)では、成人で、この1年間に何らかの運動やスポーツを行った人の割合は、74.0%であり、平成9年度に比べ6.3%上昇している。

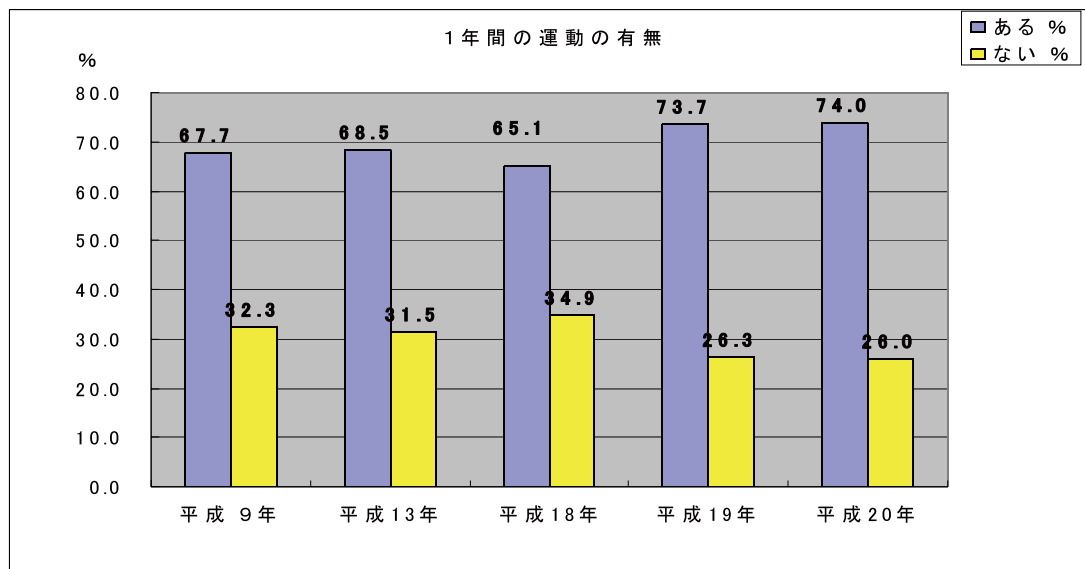


図2 平成20年度「運動・スポーツ実施状況調査」(秋田県教育委員会)より

一方、1年間に運動やスポーツを行わなかった人の理由は、「やりたくてもできなかった」が82.2%（「嫌いだから」17.8%）であった。また、その理由について、「仕事・家事が忙しい」が27.4%と最も多く、次いで「やりたいが機会がなかった」24.2%の順となっていた。

また、スポーツを盛んにする方法を聞いたところ、「だれでも気軽に参加できるスポーツ教室の開催」と答えた人が24.4%と最も多く、次いで「体育施設の条件整備」17.1%「総合型地域スポーツクラブの設立推進」10.5%の順であった。

「運動・スポーツをする目的」については、「健康保持」、「楽しみ、気晴らし」、「仲間づくりや交流」、「体力向上」を合わせると約9割となる。

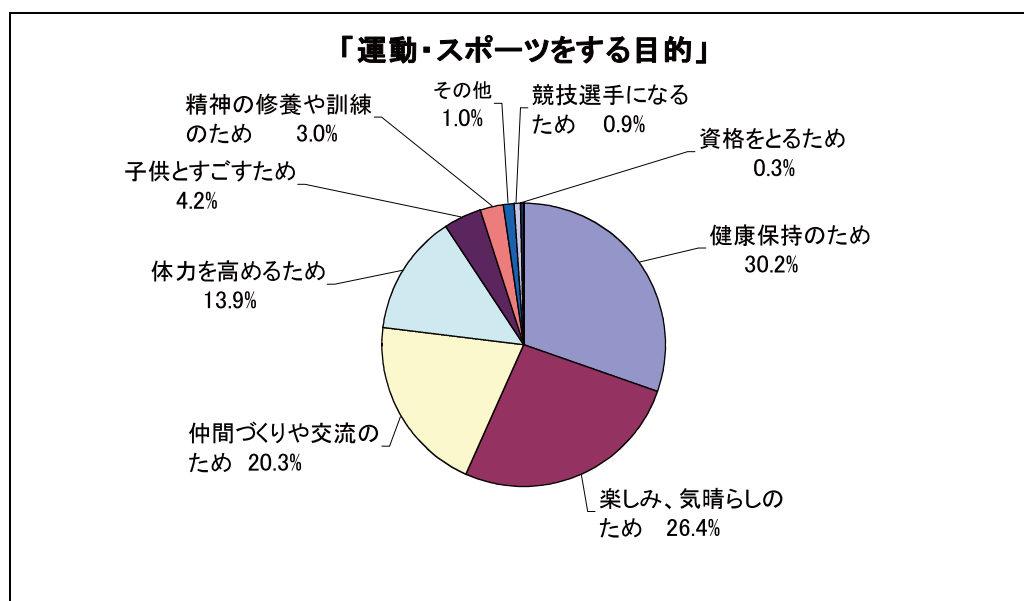


図3 平成20年度「運動・スポーツ実施状況調査」(秋田県教育委員会)より



### 【競技スポーツについて】

これまでのオリンピックにおいて本県出身者のメダル獲得数は、33個と東北一（2位青森県14個）を誇っている。体操、レスリング、スキー、マラソン等の個人競技における活躍をはじめ、バスケットボール、野球、ラグビー、サッカー等のチーム競技での活躍もあり、本県スポーツを形容する際「スポーツ王国」という言葉がよく用いられてきた。

近年においては、平成19年の第77回都市対抗野球でのTDKチーム（にかほ市代表）の優勝や、2009ノルディック世界選手権複合団体における日本代表チーム優勝に本県出身者2名（小林選手・湊選手）が大きく貢献したことなど特筆すべき活躍もあるものの、オリンピック、高校スポーツ、社会人スポーツ等の活躍を伝えるニュースが少なくなってきた。

平成19年に開催された第62回国民体育大会秋田わか杉国体では、本県は悲願の天皇杯と皇后杯を獲得することができた。しかし、平成20年の大分国体23位、平成21年の新潟国体30位と残念ながら順位を落とした。

経済状況の悪化に伴い、企業スポーツの維持や優秀な人材の県内就職環境などが厳しい状況になったほか、少子高齢化による競技人口の減少など、様々な要因が考えられる。



秋田わか杉国体 閉会式後の解団式



タレント発掘モデル事業  
「ジュニアチャレンジスクール」受講風景

こうした中、競技人口は少ないものの、国内のトップレベルの競技実績を維持して頑張っている競技も少なくない（スキー、フェンシング、レスリング、カヌー、ハンドボール、自転車等）。

現在本県では、フェンシング競技において、将来国際舞台で活躍するトップアスリートを輩出するためのタレント発掘モデル事業など、ジュニア期からの育成において、新たな取組を進めている。

### 【子どもの体力について】

子どもの体力の低下は、将来的に国民全体の体力の低下につながる。またそれは、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下など健康に不安を抱える人々が増え、ひいては社会全体の活力が失われる事態にもつながることが危惧される。平成20年度体力・運動能力調査結果（平成21年10月文部科学省発表）によると、小学校高学年と中学、高校生の体力が、平成11年度からの10年間で緩やかながら向上していることが分かった。しかし、児童生徒の体力は、ピークであった昭和60年頃に比べると、依然低い状況にある。

こうした中、平成21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省による小学校5年生、中学校2年生悉皆調査）の結果では、本県児童生徒の体力合計点は前年に続いて全国トップクラスであることが示された。

平成13年度以降、学校体育の充実や子どもたちの体力向上のために行ってきた諸<sup>\*</sup>施策や、学校現場における取組の充実などが要因として考えられる。



		握力 kg	上体 起こし 回	長座 体前屈 cm	反復 横とび 点	持久走 秒	20mシャ トルラン 回	50m走 秒	立ち 幅とび cm	ボール 投げ m	体力 合計点 (全国順位)
小5 男子	本件平均	17.72	20.61	33.83	44.20		58.50	9.41	157.55	27.69	57.22
	全国平均	16.96	19.28	32.55	40.81		50.08	9.37	153.64	25.41	54.19
	平均差	0.76	1.33	1.28	3.39		8.42	△0.04	3.91	2.28	3.03(2位)
小5 女子	本件平均	17.02	19.60	37.88	42.86		48.66	9.57	151.12	15.99	58.83
	全国平均	16.35	17.65	36.62	38.48		38.73	9.64	145.11	14.62	54.59
	平均差	0.67	1.95	1.26	4.38		9.93	0.07	6.01	1.37	4.24(2位)
中2 男子	本件平均	31.95	28.34	45.55	52.39	391.58	87.76	7.93	202.21	22.37	44.95
	全国平均	29.82	26.73	42.91	50.50	396.19	83.27	8.05	194.62	21.27	41.36
	平均差	2.13	1.61	2.64	1.89	4.61	4.49	0.12	7.59	1.10	3.59(2位)
中2 女子	本件平均	24.60	23.75	46.13	46.52	292.46	58.16	8.80	170.67	13.78	50.88
	全国平均	23.98	22.08	44.39	44.56	294.25	56.35	8.90	166.02	13.40	47.94
	平均差	0.62	1.67	1.74	1.96	1.79	1.81	0.10	4.65	0.38	2.94(7位)

※ボール投げについては、小学校：ソフトボール投げ、中学校：ハンドボール投げ

図4 平成21年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(文部科学省)より

### 【プロスポーツ、スポーツビジネス等の振興について】

本県初のプロスポーツチームとして、県民から熱い期待が寄せられている「秋田ノーザンハピネッツ」(秋田プロバスケットボールクラブ株式会社)は、平成22年度からbjリーグへの参入が決定し、10月の開幕戦に向けチームづくりなどの作業が本格的に進められている。

また、現在日本フットボールリーグに参入しているTDKサッカーチームのクラブ化に伴い、「ブラウブリッツ秋田」(秋田フットボールクラブ株式会社)が設立され、ラグビーの「秋田ノーザンブレッツ」とともにその活躍が期待されている。

プロスポーツやクラブチームの振興は、地域経済と地域の活性化につながることから、県として県民の応援機運の醸成などについて支援するとともに、スポーツビジネスという新たなステージにふさわしい振興方策について検討している。



bjリーグプレシーズンマッチ(秋田県立体育館 平成21年9月)



### 3 「スポーツ立県あきた」宣言

#### (1) 「スポーツ立県あきた」宣言

本県では、スポーツを通じた秋田の元気づくりと地域の活性化、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくり、競技力の向上など、スポーツ振興を県民運動として展開するとともに、スポーツ王国復活に向けた取組を強化するため、平成21年9月2日に「スポーツ立県あきた」を宣言した。

「スポーツ立県あきた」として目指すところは、オリンピックでの県選手の活躍、バスケットボールや高校ラグビー・サッカーの全国制覇など、秋田にスポーツ王国という冠が付けられていた時代の輝きを取り戻すことにある。

また、競技力の向上のみならず、高齢者・障害者も含めた生涯スポーツの振興を通じ、スポーツ人口のすそ野の拡大や、健康で豊かな生活の実現を目指すものである。

さらに、秋田の看板を背負ったプロスポーツの誕生を契機として、スポーツビジネスの振興、秋田の情報発信、賑わいづくりなどを通じ、元気と活力のある秋田を目指そうとするものである。

#### (2) 「スポーツ立県あきた」宣言式典

秋田市の県立体育館で行われた式典には、財団法人秋田県体育協会（以下、「県体育協会」という。）や各競技団体の関係者、新潟国体県選手団、生涯スポーツ関係者、障害者スポーツ団体関係者、中学生・高校生・一般県民を含めた約2千人が参加。勇壮な「なまはげ太鼓」の演奏や、全日本一輪車競技大会小学校のクラスで全国一に輝いた「白百合保育園一輪車クラブ」による華麗な演技が式典に華を添えた。また、北秋田市出身で、冬季オリンピック3大会連続で入賞するなど日本スキージャンプ複合競技の第一人者として活躍している高橋大斗選手を、県民に夢と希望を与えてくれる「スポーツ立県あきた」のシンボリックなアスリートとして「秋田県スポーツ大使」に任命した。高橋選手からは、県民に向けて、競技に臨む強い決意とともに「スポーツ立県あきた」を応援する熱いメッセージをいただいた。

こうした中、佐竹知事、鈴木洋一県体育協会会長、ミュンヘンオリンピックレスリング競技金メダリストの柳田英明氏をはじめ、小学生、中学生、高校生等の県民の代表8人が、前文と6項目にわたる決意を声高らかに宣言した。



「スポーツ立県あきた」宣言



「秋田県スポーツ大使」高橋 大斗 氏





# 「スポーツ立県あきた」宣言

## 前文

スポーツは、爽やかさや楽しさ、喜びをもたらすとともに、体力の向上や病気の予防、人格形成など心身両面の健康づくりに役立ちます。

スポーツは、協調と連帯の心を育み、ルール、マナー等を守る意識を高めるとともに、多様なネットワークを生み出し、お互いの「絆」を強くします。

スポーツは、夢とその実現に向けて突き進む勇氣、困難を乗り越える力を育みます。

スポーツは、人々に感動と誇りを、地域に活気と賑わいをもたらす、明るく豊かで活力に満ちた社会を創造します。

今後、私たち秋田県民は、スポーツを秋田の活力と発展のシンボルとし、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくり、競技力のレベルアップによるスポーツ王国秋田の復活を目指します。

## 決意

- 一、小さいころから様々な運動・スポーツに慣れ親しむ活動を充実させ、心身ともに健やかで元気な子どもが育つ秋田をつくります。
- 二、子どもから高齢者まで障がいのある方も含めてだれもが、いつでも・どこでも・いつまでも、気軽に楽しめるスポーツ環境を充実させ、元気でハツラツとした健康長寿の秋田をつくります。
- 三、スポーツライフの創造や競技大会の運営をサポートするボランティア等のネットワークづくりを進め、県民がともに喜びを分かちあい、元気に力を合わせてスポーツ活動を支える秋田をつくります。
- 四、優れた指導者の育成や人材の発掘・強化に力を入れ、国内外のひのき舞台上で活躍できるトップレベルのチームやアスリートを輩出する、元気で誇れる秋田をつくります。
- 五、秋田の顔となるプロスポーツやクラブチームの育成により、スポーツビジネスを振興するとともに、全国的なスポーツイベントや大会の誘致を進め、県内外からアスリートや応援団が集う、元気で賑わいのある秋田をつくります。
- 六、県民が一人ひとりの能力、関心に応じて、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」などそれぞれの形で幅広く参加することにより、元気で活力あふれる秋田をつくります。

以上の決意をここに記し、「スポーツ立県あきた」を宣言します。

平成21年9月2日

秋田県知事 佐竹敬久



## 4 本計画策定の趣旨及び位置づけ

秋田県スポーツ振興基本計画～「スポーツ立県あきた」推進プラン～は、この「スポーツ立県あきた」の趣旨を具現化するため、様々な施策を体系的・計画的に推進していくものである。

併せて、本計画は、スポーツ振興法の規定に基づき、<sup>\*</sup>国の「スポーツ振興基本計画」を参考に、本県の実情に即して定めたスポーツの振興に関する計画に当たるものである。

## 5 計画の期間

平成22年度から25年度までの4ヵ年とする。

本計画に基づく施策を強力に推進するとともに、適宜、計画の進捗状況の把握に努める。

## 6 計画に掲げる施策の推進に必要な財源の確保

本計画に掲げる施策の推進に当たっては、スポーツ振興のための財源の確保が重要である。このため、財政事情等を考慮しつつ、スポーツ振興のために必要な予算措置の充実に努めるとともに、<sup>\*</sup>スポーツ振興くじ（toto）の助成金や国の各種事業の活用のほか、企業や個人等からの寄附金を含めた民間資金の活用など、多様な財源確保のための取組に努める必要がある。

【参考】平成21年度及び平成22年度スポーツ振興予算（当初予算）

年 度	平成21年度	平成22年度	増 減（増減率）
予 算 額	1,136百万円	1,244百万円	108百万円（9.5%増）



## 7 計画のめざす姿



### 秋田県スポーツ振興基本計画 ～「スポーツ立県あきた」推進プラン～

計画の期間:平成22年度から25年度までの4ヵ年

<b>1</b> 生涯スポーツの振興 県民の健康で生きがいのある生活を創るスポーツ活動の充実を図ります。	<b>2</b> 競技スポーツの振興 県民に夢や希望を与えるアスリートの育成を進めます。	<b>3</b> 子どものスポーツ活動の充実 健やかな子どもをはぐくむ学校体育・スポーツ活動の充実を図ります。	<b>4</b> スポーツ環境の充実 県民のスポーツ活動を支える組織の充実・施設の活用を図ります。	<b>5</b> スポーツ振興による地域の活性化 スポーツを通じた秋田の元気づくり・活力の創出に努めます。
---	---	--	--	--

### 秋田の活力と発展のシンボルとしてのスポーツ振興

### 「スポーツ立県あきた」宣言

#### 決 意

運動・スポーツに慣れ親しむ活動を充実させ、心身ともに健やかで元気な子どもが育つ秋田をつくります。	気軽に楽しめるスポーツ環境を充実させ、元気でハツラツとした健康長寿の秋田をつくります。	スポーツライフの創造や競技大会の運営をサポートするボランティア等のネットワークづくりを進め、県民がともに喜びを分かちあい、元気に力を合わせてスポーツ活動を支える秋田をつくります。	国内外のひのき舞台で活躍できるトップレベルのチームやアスリート輩出する、元気で誇れる秋田をつくります。	秋田の顔となるプロスポーツやクラブチームの育成により、県内外からアスリートや応援団が集う、元気で賑わいのある秋田を田をつくります。	スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」などそれぞれの形で幅広く参加することにより、元気で活力あふれる秋田をつくります。
--	---	---	---	---	---

## 第Ⅱ章 「スポーツ立県あきた」推進のための取組



### 1 生涯スポーツの振興

☆県民の健康で生きがいのある生活を創るスポーツ活動の充実を図ります。

#### (1) 総合型地域スポーツクラブの設立・育成の推進

**目標** だれもが気軽にスポーツを行うことができるよう、地域の実態に応じて市町村単位に複数の総合型地域スポーツクラブの育成を目指す。

#### 現状と課題

総合型地域スポーツクラブとは、地域の住民が自ら運営・管理するシステムで、子どもから高齢者まで、だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、自分の好きなスポーツを行うことのできる地域住民のためのスポーツクラブである。

「総合型」には、「種目・世代・技術レベル」における多様性があり、それぞれの目的にあわせて、だれでも参加できるものであり、従来の単一種目からなるスポーツ団体（クラブ等）と趣を異にしている。

国及び県の施策として、平成22年までに各市町村単位に少なくとも1つ以上総合型地域スポーツクラブを育成することを目標として掲げているが、本県においては、平成22年2月現在25市町村中17市町村が設立済みであり、残りの8市町村のうち7市町村は平成21年度内に設立予定、1町は設立準備中である

市町村名	設立クラブ名	設立準備中クラブ名
鹿角市	1 NPO鹿角くらすた	①鹿角ウインブル
小坂町		
大館市	2 大館総合スポーツクラブプレイングトルシーダ大館	
北秋田市	3 あいあいクラブたかのす 4 小猿部スポーツクラブ 5 森吉クマゲラススポーツクラブ	
上小阿仁村	6 かみこあに総合型クラブスマイル	
能代市	7 常磐の里スポーツクラブ 8 ニツ井きみまちスポーツクラブ	②東能代地区にこにこスポーツクラブ
三種町	9 琴丘地域スポーツクラブ連盟	③八竜地域スポーツクラブ ④山本地域スポーツクラブ
八峰町		⑤八森はたはたスポーツクラブ
藤里町		⑥藤里町総合型地域スポーツクラブ
秋田市	10 秋田ノーザンブレッツラグビーフットボールクラブ 11 特定非営利活動法人スポーツクラブあきた 12 グリーンスポーツ倶楽部 13 グリーン異会 14 下浜スポーツクラブSUN-Q 15 ユーニオン城東スポーツクラブ 16 S REAL JAPON総合型地域スポーツクラブ 17 弥生スポーツクラブ 18 総合型地域スポーツクラブエスポルチ秋田	⑦T・Tスポーツクラブ ⑧総合型クラブ「桜・遊」
男鹿市	19 男鹿市総合型地域スポーツクラブ	
潟上市	20 昭和スポーツクラブ	
五城目町	21 五城目総合型クラブ ゴスバル	
八郎潟町		⑨八郎潟町総合型地域スポーツクラブ
井川町	22 いかわスポーツクラブ	
大潟村		⑩大潟村総合型地域スポーツクラブ
由利本荘市	23 尾崎スポーツクラブ 24 SPORTS・POPORO	
にかほ市		⑪BSスポーツクラブ
大仙市	25 大曲スポーツクラブ	
仙北市	26 NPO角館総合型地域スポーツクラブ 27 たざわコススポーツクラブ	
美郷町		⑫美郷町総合型地域スポーツクラブ
横手市	28 NPO法人よこてスポーツクラブ 29 湯沢ゆうゆう総合型地域スポーツクラブ	⑬大森町スポーツクラブ
湯沢市	30 チャレンジスポーツクラブいなかわ 31 こまちハート・オブ・ゴールド 32 みなせスポーツ・文化クラブ「楽日人」	
羽後町		⑭羽後町総合型地域スポーツクラブ
東成瀬村	33 仙人の郷スポーツクラブ	

図5 本県の総合型地域スポーツクラブ設置状況（平成22年2月現在）





課題として、クラブが自主的・自立的に運営され、持続して活動をしていくため、会員の確保と適切な会費設定を基本としつつ多様な財源の確保を図るほか、質の高い指導者やクラブマネジャーの確保などの運営基盤の充実があげられる。

今後は、広域スポーツセンターと県体育協会の緊密な連携を図ることにより、魅力あるプログラムの提供と地域住民への意識啓発を効果的に行うとともに、スポーツ振興くじ（toto）の助成金活用を含めた財政基盤等の確立と、優れた指導者の育成を図る必要がある。

また、地域の実情に合わせて旧市町村単位又は中学校区単位での設立について働きかけるとともに、単一種目のスポーツ団体（クラブ等）が総合型地域スポーツクラブへ発展するよう支援していくことも視野に入れ、各種団体・組織との連携や学校関係者（教職員・児童生徒・保護者）への啓発活動も重要であるとする。

## 施策

### ①地域住民等の意識啓発のための活動の推進

○県体育協会等と連携し、クラブ訪問や市町村訪問、情報発信等の取組を充実させ、クラブを設立しようとする地域住民や関係者の意識の啓発を図り、総合型地域スポーツクラブの認知度を高める。

### ②総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の充実

○県体育協会との協力・連携のもと、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の活動の充実を図り、情報や魅力あるプログラムの共有化を進めるとともに、指導者等の人材のネットワーク化を図る。

### ③人材の発掘・育成支援

○関係機関（市町村・スポーツ指導者協議会等）との連携を図るほか、養成講座の開催、研修事業等を支援することを通して、総合型地域スポーツクラブの設立・運営の中心となるキーパーソン、優秀な指導者やクラブマネジャーの確保を図る。

### ④既存クラブ等の団体からの発展

○子どものころから複数の種目に親しむことを重視し、既存の単一種目のスポーツ団体やスポーツサークル等の実情や必要性に応じて、地域において中核となる総合型地域スポーツクラブへと発展できるよう支援を行う。

## （２）広域スポーツセンター機能の充実

**目標** 総合型地域スポーツクラブの育成支援を強化するとともに、各クラブの円滑な運営に向け、広域スポーツセンターの機能の充実を図る。

### 現状と課題

広域スポーツセンターとは、総合型地域スポーツクラブの運営等を支援することを目的として、クラブの設立・育成やクラブマネジャー・指導者の育成に関する支援、広域市町村圏における県内スポーツ情報の整備・提供やスポーツ交流大会の開催等の機能を備える機関である。

国の施策としては、平成22年度までに各都道府県において少なくとも1つ育成することとなっている。本県では県スポーツ科学センターに秋田県広域スポーツセンターを置き、県北・県央・県南地区の担当職員を配置し、全県をカバーしている。



課題として、<sup>\*</sup>育成アドバイザー（県体育協会）との緊密な連携、県内スポーツ関係機関・団体等との連携の強化等があげられる。また、交流大会や指導者養成研修会等の開催に係る財源の確保も重要な課題である。

今後は、<sup>\*</sup>広域スポーツセンター企画運営委員会（仮称）の設置を検討するなど、県の実情に即した広域スポーツセンターの組織を含む機能の充実を図ることが大きな課題として考えられる。

## 施 策

### ①総合型地域スポーツクラブの設立・育成及び活動に関する支援

- 広域スポーツセンターの担当職員の配置、指導者の派遣により、各市町村教育委員会担当者やクラブ担当者等との連携を図り、情報や人材などに関する支援を積極的に行う。
- クラブ間の交流大会の開催を推進し、魅力あるプログラムや課題等の情報交換や人材の交流を図る。

### ②総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャー・指導者の育成に関する支援

- クラブマネジャー資格取得に係る環境の整備を進める。
- クラブマネジャー及び指導者を対象とした研修会等を通して育成支援する。

### ③関係機関・団体等との連携の強化

- 県内大学や民間スポーツクラブ及び各関係団体（体育協会・レクリエーション協会・障害者スポーツ協会・体育指導委員連絡協議会等）との連携を強化するとともに、広域スポーツセンター企画運営委員会（仮称）等の設置を検討する。

### ④スポーツに関する情報やクラブ運営ノウハウ等の情報の積極的な提供と啓発活動

- クラブ関係者・市町村関係者・学校・地域住民に対して、スポーツに関する情報やクラブ運営ノウハウ等について、ホームページやメールマガジン等を活用して、積極的な情報発信の充実を図る。

## （3）高齢者スポーツの振興

**目 標** 関係団体への支援を推進し、大会参加者数や大会参加種目数の維持、増加を図る。

### 現状と課題

高齢者のスポーツを通じた生きがいや健康づくりに関する県の施策として、<sup>\*</sup>全国健康福祉祭（ねんりんピック）への毎年の選手団の派遣、平成4年度から開催しているいきいき長寿あきたねんりんピック（県版ねんりんピック）の実施、老人クラブなどが実施しているグラウンドゴルフなどのスポーツ等への取組に対し支援を行っている。

しかし、高齢者の意識が変化し、ニーズが多様化したことや各種支援の減少などにより参加者数などが伸び悩んでいる。

今後は、より多くの高齢者が参加しスポーツ活動を行えるよう、各種スポーツ・健康教室の充実や指導者の育成を図るとともに、大会の参加や開催等に係る支援の維持拡充や普及啓発を図る必要がある。

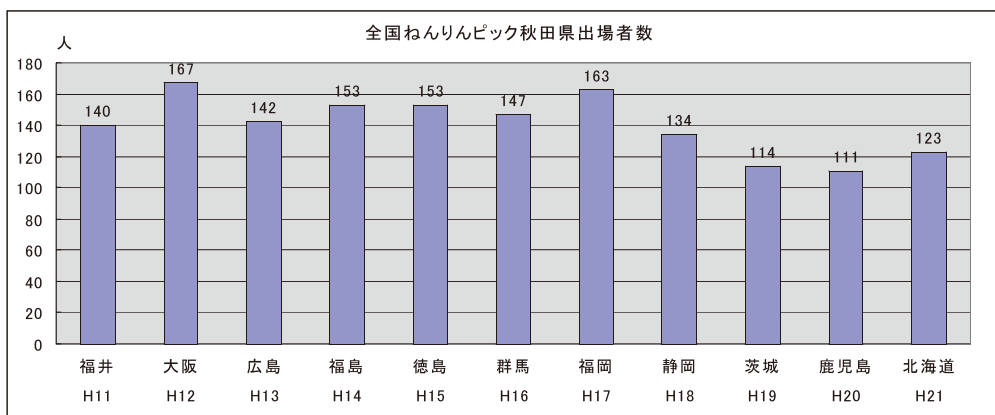


図6 全国健康福祉祭（ねんりんピック）への本県出場者数の推移状況

### 施策

- ①スポーツ・健康教室等の開催
  - 県スポーツ科学センターで行っている「あきた元気アップスポーツ推進事業」における各種スポーツ・健康教室の充実を図る。
- ②指導者育成に関する支援
  - 県庁出前講座等を活用した、県スポーツ科学センター職員の派遣やスポーツプログラムを提供等を通じて、指導者育成を支援する。
- ③ねんりんピック参加者等への支援
  - ねんりんピック・いきいき長寿あきたねんりんピックの大会参加、開催に係る経費の助成や広報を積極的に行い、より多くの高齢者が参加できるよう支援する。
- ④老人クラブ等への支援
  - 老人クラブ等の活動に係る経費の助成を引き続き行うとともに、先進事例等の広報などを行い、老人クラブ等における活動の活性化を図る。
- ⑤高齢者スポーツの効能の啓発
  - スポーツの効能について普及啓発を行い、高齢者のスポーツ活動への参加を促進することにより、高齢者スポーツの振興を図る。

## (4) 障害者スポーツの振興

**目標** 障害者スポーツ指導員のスキルアップを図り、関係機関・団体とともに障害者スポーツの普及・発展を図る。

### 現状と課題

障害のある方々のスポーツを行う動機や目的は、体力の維持増強、仲間との交流、自己の能力や記録の向上など多様化してきている。

障害のある方々の自立と社会参加の促進に寄与することを目的に、身体障害者、知的障害者、精神障害者が一堂に会して行う秋田県障害者スポーツ大会は、今年（平成21年）で7回を数えている。また、



秋田わか杉大会 車いすバスケットボール



平成19年に開催された「全国障害者スポーツ大会（秋田わか杉大会）」は、障害者スポーツに対する県民の理解と認識を深めたところである。

今後は、障害者スポーツの普及・発展のため、関係機関・団体との連携を密にし、障害のある方々が日常的にスポーツ活動に参加できる環境の充実を図る必要がある。

## 施策

### ①指導者の養成及びスキルアップ支援

- 障害者スポーツ推進員を増員し、推進体制を強化する。
- 各種講習会の受講やスポーツ教室の開催などを通じ、障害者スポーツ指導員のスキルアップを図る。

### ②障害者スポーツの情報発信

- <sup>\*</sup>障害者スポーツ関係18団体で設立された連絡協議会を活用し、関係団体相互の情報交換と連携を強化する。

### ③障害者スポーツ競技会・教室の開催

- 県障害者スポーツ大会の開催のほか、在宅障害者を対象にしたスポーツ教室の開催や、障害者スポーツ団体と学生等とのスポーツ交流事業を行う。

### ④スポーツ施設の<sup>\*</sup>バリアフリー化

- スポーツ施設のバリアフリー化の状況把握と対策を促進する。

## (5) 健康づくり運動の推進

**目標** 生活習慣として、1週間に2回以上<sup>\*</sup>運動する成人の割合を60%とするなど、身近で自分に適した運動を行う人の増加を図る。

### 現状と課題

人口動態統計等のデータによると、本県は脳卒中やがん、心疾患、糖尿病など生活習慣病による死亡率が高く、成人の約2人に1人が高血圧症と言われている。また、児童生徒における<sup>\*</sup>肥満傾向児出現率も全国平均より高い傾向にある。

県の「健康づくりに関する調査」（平成18年度）等によると、「1週間に2回以上運動」と回答した人が44.9%と微増、「一人当たりの1日の平均歩数」は6,217歩と減少傾向である。運動しない理由としては、「時間に余裕がない」・「仕事等の疲れ」が多くなっている。また、「健康であるという意識」は低下しており、高齢になるほどその傾向が顕著である。

県では、平成19年度から「スポーツ・運動を通じた日本一健康な県づくり県民運動」によりウォーキングと体操を奨励し、地域・町内や職場の健康づくりを推進している。あわせて、ウォーキングや体操等の講習会や<sup>\*</sup>メタボリックシンドロームの予防啓発等も行っている。

今後は、一層県民の健康の増進に向けた対策の充実を図るとともに、中・高齢者の生活習慣病を予防するため、年代



健康づくり研修会





やライフサイクル別、運動能力や健康状態などを踏まえた一人ひとりに最適な運動を促進する必要がある。

## 施 策

### ①健康教育の充実

- 運動時間や運動強度（負荷強度・頻度・持続時間）・期間の目安など、運動の有効性と実践方法の情報提供を行うことを通して、生活習慣として身近で自分に適した運動を行う人の増加を図る。
- <sup>\*</sup>健康運動指導士や地域のスポーツ指導員等と協力・連携するとともに、ウォーキングや体操等の実技研修会等の開催を通して、運動方法の普及やきっかけづくりの促進を図る。
- <sup>\*</sup>地域健康づくりサポーターや<sup>\*</sup>健康づくりマネージャー等に対し、情報の提供を行い、地域や職場での健康教育活動の機会を増やす。
- 総合型地域スポーツクラブ、公民館や体育館等を活用した健康講座やウォーキング・体操等の実技研修、グラウンドゴルフなどの身近なスポーツを通じて県民の健康づくりなどの普及啓発に努める。

### ②運動習慣定着化の推進

- 日常生活において徒歩での買い物や通勤を奨励する。また、ウォーキング大会や地域ぐるみの各種イベントの開催、<sup>\*</sup>ウォーキングマップなどの有用な情報提供に努める。
- ラジオ・テレビ体操やストレッチ、エアロビクスなどの<sup>\*</sup>有酸素運動や筋力トレーニングなどを組み合わせながら、各自の目的に応じた運動の推進を図る。

### ③環境整備の推進

- 公共施設などにおけるスポーツ講座や健康講座等の開設を支援することにより、いつでも誰もが気軽に運動等ができる環境づくりを推進する。

## (6) 地域で活躍できる指導者・スタッフの育成

**目 標** 資質向上のための研修事業や指導者の有効活用の促進により、地域において様々な場面で適切な指導ができる指導者の育成・確保を図る。

### 現状と課題

各競技団体では、これまで種目別に専門的な知識や技能を習得するための講習会等を実施している。また、県においても、地域のスポーツ指導者養成を目的とした講習会を県スポーツ科学センターを中心に開催している。

一方、県民の多くがスポーツに親しむ中で、その内容や目的、ニーズが多様化・高度化しており、スポーツ・レクリエーションに関わる指導者の人数の確保と資質向上が重要となってきている。

こうした中、地域において指導者となり得る人材を有しながら、十分に活用されていないとの状況も聞かれることから、指導者のさらなる発掘・育成と、有効活用のため、研修会情報の発信や指導者に関する情報を伝え活用する仕組み等の整備を図ることが求められる。



## 施 策

### ①研修会・講習会の充実

- 研修会や講習会等において、県内外の優れた講師の招聘や、中央で開催される研修会への参加機会の確保など、指導者の資質向上とリーダーとなる人材の育成を図る。
- 研修会の開催を通して、総合型地域スポーツクラブや地域の中から、指導者を発掘・育成する。
- 大学等の関係機関と連携・協力し、指導者の養成及び地域の指導者育成の充実を図る。

### ②指導者の有効活用

- 指導者情報や講座等の検索が可能な生涯学習支援システム「まなびサポート秋田」を活用するなどして、指導者の有効活用の取組を促進する。

## 2 競技スポーツの振興

☆県民に夢や希望を与えるアスリートの育成を進めます。

### (1) 選手の夢をはぐくむことができる指導者の確保・育成

**目 標** 選手の夢をはぐくみ、その能力を十分に開花させるため、教員枠以外の職員採用を含めた優れた指導者の確保・育成と資質の向上を図る。

#### 現状と課題

日本の競技スポーツ振興の歴史の中で、学校における運動部活動は、これまでも大きな役割を果たしてきている。しかし、競技レベルが高度化してきた近年、活動環境の充実や指導技術におけるより高い専門性が求められるようになってきた。

こうした中、恵まれた活動環境と高い指導技術を有するスポーツクラブ等での活動も盛んになってきている。

本県の場合、スポーツクラブ等での活動による活躍も見られる一方、ほとんどの選手がスポーツ少年団等の活動から競技を始め、主に中学・高校の運動部活動を経て競技力を身につけてきている。しかし、指導者である教員の教育現場における多忙化や子どもを取り巻く生活環境の変化など、じっくり時間をかけた運動部活動指導が厳しくなっている状況も見られる。

指導者と活動環境の条件が整って選手の競技力は高まる。魅力のある指導者の元には、素質のある選手が集まり、個人・チームは強くなる。強ければ更に優秀な選手が集まり、周囲からの支援も厚くなる。こうした相乗効果が、選手の夢をはぐくみ、その能力を開花させる環境づくりに欠かせないことから、指導者の確保・育成が重要な課題である。

## 施 策

### ①教員枠以外の職員採用

- 非常勤職員や任期付職員としての採用など、様々な採用方法について検討、実施して、競技力向上のための指導者やトップアスリートを確保する。



## ②指導力のある部活動指導者の確保と適正配置

- 公立学校教諭等採用候補者選考試験の<sup>\*</sup>社会人特別選考において、高いレベルの競技実績のあるトップアスリートを、高等学校保健体育科教員として引き続き採用の対象とする。一般選考においては、優れた競技実績をあげている指導者の競技実績を評価する。
- 指導力のある部活動指導者の適正配置を進める。

## ③トップアスリート等の活用の推進

- <sup>\*</sup>アドバイザー招聘事業（中央競技団体と連携を図ることのできる著名なコーチを専任アドバイザーとして定期的に招聘）を推進し、選手のレベルアップや指導者の資質向上を図る。
- <sup>\*</sup>テクニカルアドバイザー（優れた競技技術を有する選手等を、県体育協会へ配置し、県内の高校やスポーツ施設を拠点に、部活動の指導等にも活用）の配置を推進し、部活動の指導等を充実する。
- 本県で育てた選手が指導者としても活躍できるよう、民間企業等においてもトップアスリートの雇用の場の確保に努めるよう促す。

## ④研修機会の確保等による指導者資質の向上

- 教職員以外の指導者が中央研修等を受けるための環境整備を図る。
- 高校運動部活動指導者の<sup>\*</sup>長期研修派遣の拡充を図る。

## (2) 国内外のひのき舞台で活躍できるアスリートが育つ 選手強化体制の整備・拡充

**目標** 国内外のひのき舞台で活躍できるアスリートを育て、特にオリンピックにおいて夏季5名・冬季5名の本県出身選手の輩出を目指す。

### 現状と課題

国内外の大会における本県出身のアスリートの活躍は、県民に夢と希望、そして県全体に活力を与えてくれる。

これまでのオリンピックにおいては、メダル獲得数33個と東北一(2位青森県14個)を誇る本県であるが、前回の夏季・冬季オリンピックに出場した本県出身選手は、2008年北京大会2名(入賞者なし)、2010年バンクーバー大会に4名(ノルディック複合団体6位入賞2名、ノルディック複合個人ノーマルヒル7位入賞1名)である。

また、平成19年の第62回国民体育大会秋田わか杉国体で、悲願の天皇杯と皇后杯を獲得したが、翌年の大分国体23位、平成21年の新潟国体30位と残念ながら順位を落とした。

経済状況の悪化に伴い、企業スポーツの維持や優秀な人材の県内就職環境などが厳しい状況になっ



2009ノルディック世界選手権複合団体優勝 日本チーム (撮影:岩瀬孝文氏)



たほか、少子高齢化による競技人口の減少に加え、競技能力の高い中学生の他県流出、女子の運動部活動への低所属率（中学58%前後、高校30%前後で推移）の慢性的な状況などが、要因として考えられる。

こうした中、体格に恵まれ運動能力の高い児童生徒が多いといわれる本県において、その能力を十分に開花させ、秋田から日本、そして世界で活躍できるアスリートを育成し、将来的に指導者等としてその力を秋田に還元するといった循環型強化スタイルを確立することが、スポーツ王国秋田の実現につながるものである。そのためにも、これまでの成果を継承しつつ本県の実情にあった強化体制の整備・拡充を図ることが求められる。

## 施 策

### ①<sup>\*</sup>スポーツ王国づくり強化事業の推進と効果的運用

- 県のスポーツ王国づくり強化事業を推進するとともに、「育てながら勝つ」を強化の基本方針に据え、小学生・中学生・高校生年代の一貫指導体制の構築や競技力に見合った更なる重点配分等を考慮した効果的運用を進め、競技力の向上を図る。
- 強化の拠点となる高校への支援を通して、全国大会においてトップレベルでの活躍ができる選手・チームを育成する。

### ②タレント発掘等ジュニア層の育成と強化

- 将来トップアスリートとして活躍が期待できる子どもを発掘し育成する「タレント発掘事業」を核に、フェンシング競技以外の複数の競技団体への拡充を図る。

### ③高校生トップアスリートサポート事業（スポーツ奨学金）の推進

- スポーツ分野で傑出した能力を持つ高校生選手を支援する観点から、全国規模の大会での活躍実績のある選手等のうち、県内の下宿等で生活する選手を対象に奨学金を給付する。

### ④地域の特色を生かした高校の整備

- 当面、平成23年度に北秋田地区に開設する統合高校において、スポーツ専攻コースを設置し、フェンシングとスキー競技を中心に、将来オリンピックで活躍する選手の育成に取り組むとともに、遠方からでも進学が可能となるよう寄宿舎の活用を図る。

### ⑤平成23年度北東北インターハイに向けた強化

- 平成23年度に北東北3県で共同開催される全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に向け、県高体連の各競技専門部が実施する強化事業への支援等により、選手強化を推進する。





### (3) スポーツ医科学を活用した競技力向上支援システムの確立

**目標** 最新のスポーツ医科学を活用し、競技者の実情に対応した競技力向上支援システムの確立に向けた取組を強化する。

#### 現状と課題

競技力の向上を図る上で、スポーツ医科学のサポートは、大変重要な要素であると考えられる。

国においては、国立スポーツ科学センターが開設（平成13年10月）されている。

本県においても、秋田わか杉国体に向けて、平成14年度の秋田国体競技力向上対策局の設置とともに、国体強化拠点校や強化指定選手に対する医科学的サポートを実施し、国体総合優勝に大きく貢献した。



県スポーツ科学センター体力診断：呼気ガス測定

国体終了以後は、実施主体を県スポーツ科学センターに移管して、体力診断事業、トレーナー派遣事業、スポーツ医科学事業等を実施している。

スポーツ医科学によるサポートの柱を<sup>\*</sup>メディカル、<sup>\*</sup>コンディショニング、<sup>\*</sup>ニュートリション、<sup>\*</sup>フィジカル、<sup>\*</sup>メンタルの各分野とし、体力診断等の科学的なデータに基づき、各分野の専門家から選手、指導者、保護者にフィードバックすることで、現場指導を支援してきている。

今後も競技力向上支援の中で、スポーツ医科学の効果的な活用を図ることが求められる。

なお、スポーツにおける<sup>\*</sup>ドーピングの防止については、平成17年第33回国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）総会において「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約」（以下「規約」という。）が採択された。日本においても、平成18年に規約を締結し、文部科学省が「スポーツにおけるドーピングの防止に関するガイドライン」策定し、ドーピング防止活動の一層の推進を図っている。その中で、<sup>\*</sup>財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）、スポーツ団体、都道府県等は、競技者及び競技者支援要員に対して、教育・研修に係る事業を継続的に実施するとされている。

#### 施策

##### ① スポーツ医科学を活用した競技力向上支援システムの充実

○競技特性や実績による対象選手（チーム）の選定や測定結果を基にした<sup>\*</sup>トレーニングアドバイザーによる巡回指導のほか、スポーツ医科学推進モデル校事業による学校やチームの実情に対応したフィールドテストやフィードバック等を実施し、体力診断事業の一層の充実を図る。

○体力診断事業アドバイザー等、各分野の専門家からの最新情報を提供するとともに、競技団体と連携し事業成果の検証を通して情報を整理し、系統的な指導書の策定を目指す。



## ② スポーツ医科学の拠点機能の充実

○国立スポーツ科学センターとの連携を深め、最新の情報や調査研究の成果を発信する。

○最新の測定方法やデータ分析に対応するための、測定機器等の充実を図る。

## ③ トレーナー等のサポートスタッフの育成と確保

○現場のニーズが高いトレーナー派遣事業を推進する。

○トレーナー等の資質向上のための研修会の実施と、新たな人材の育成を図る。

## ④ ドーピング防止に関する教育・研修

○現在、県体育協会で行っている、「アンチ・ドーピング研修会」及び国民体育大会出場選手や役員を対象に実施される研修会の継続と充実に向けた支援を行う。

## 3 子どものスポーツ活動の充実

☆健やかな子どもをはぐくむ学校体育・スポーツ活動の充実を図ります。

### (1) 学校体育の充実

**目標** 各種事業や研修等を通して、教員の指導力向上を図り、運動好きな児童や運動が得意な生徒を育てる。

#### 現状と課題

平成20年3月に小学校及び中学校学習指導要領が改訂され、小学校は平成23年度から、中学校は平成24年度から全面実施される（平成21年3月に高等学校学習指導要領が改定され平成25年度から学年進行で実施）。その中で、体育・保健体育科については、心と体をより一体としてとらえることを引き続き重視しながら、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」、「体力の向上」を重要なねらいとして掲げている。また、体育・保健体育の授業時数の増加や体づくり運動の充実、中学1・2年生における武道・ダンスの必修化などが盛り込まれている。

本県では、これまでも生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康の保持増進の基礎を培うという観点に立ち、児童生徒にとって学びがいのある体育・保健体育学習の構築を図るため、<sup>\*</sup>「体育実技補助指導者派遣事業」や<sup>\*</sup>「体育学習センスアップ事業」などの学校体育の充実に係る諸事業を展開し、運動好きな児童及び運動が得意な生徒の育成に努めてきた。

しかし、厳しい財政の中、県単独事業としての予算確保が難しくなり、平成21年度は、文部科学省委託事業「地域スポーツ人材の活用実践支援事業」を活用した、運動好きな児



体育学習テクニカルサポート事業での授業風景



童、運動の得意な生徒の育成と教員の指導力の向上を目指す「<sup>\*</sup>体育学習テクニカルサポート事業」を中心として展開してきている。

今後も、本県の児童生徒が、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」、「健康の保持増進のための実践力」を身に付けられるよう、引き続き、教員の指導力の向上と、運動好きな児童及び運動が得意な生徒の育成を図るための取組を強力に推進する必要がある。

## 施 策

### ①体育・保健体育学習の充実に関する事業の推進

- 主に児童生徒の技能の向上とつまずきへの対応を目的として、運動やスポーツの専門性を有する地域の人材（高等学校教員等）を活用したT・T（ティーム・ティーチング）授業等の充実を図る。
- 主に教員の指導力の向上を目的にして、大学関係者及び指導主事等を派遣して質の高い授業づくりを図る。

### ②各種研修会の充実

- 小学校、中学校、高等学校学校体育担当者連絡協議会の開催により、本県の課題の共通理解を深めるとともに情報発信・交換を行う。
- 子どもの体力向上指導者養成研修への現場教員の派遣により、教員の資質向上及び県内研修の充実を図る。
- 学校体育実技指導者講習会（武道・ダンス含む。）の開催による実技指導力の向上を図る。
- 健康教育及び食育に関する研修会等を通して、望ましい生活習慣の確立を促進するための指導の充実を図る。

### ③学校訪問の充実

- 「運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育学習」の実現に向けた指導の充実を図る。
- 「自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成する保健学習」の実現に向けた指導の充実を図る。
- 「体育・健康に関する指導」において、発達の段階を考慮した学校教育活動全体を通じた取組となるよう指導の充実を図る。

## (2) 子どもの体力・運動能力の向上

**目 標** 新体力テストにおける握力・持久走・立ち幅跳びなどの項目について、<sup>\*</sup>全国平均より優れている項目の割合が、70%台以上となるよう維持・向上を図る。

### 現状と課題

子どもの体力については、「平成21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（文部科学省による小学校5年生、中学校2年生悉皆調査。以下「全国体力・運動能力等調査」という。）の結果では、本県児童生徒の体力合計点は前年に続いて全国トップクラスであることが示された。また、これまで県が独自に行っている、新体力テストの調査・分析においても、秋田県平均が全国平均を上回っている項目の割合は、平成21年度小学校・中学校・高校の全体として、80.4%（小学校87.5%、中学校75.9%、高等学校72.2%）である。これらの好結果は、平成13年度以降、学校体育の充実や子



子どもたちの体力向上のために行ってきた諸施策や、学校現場における取組の充実などが要因として考えられる。

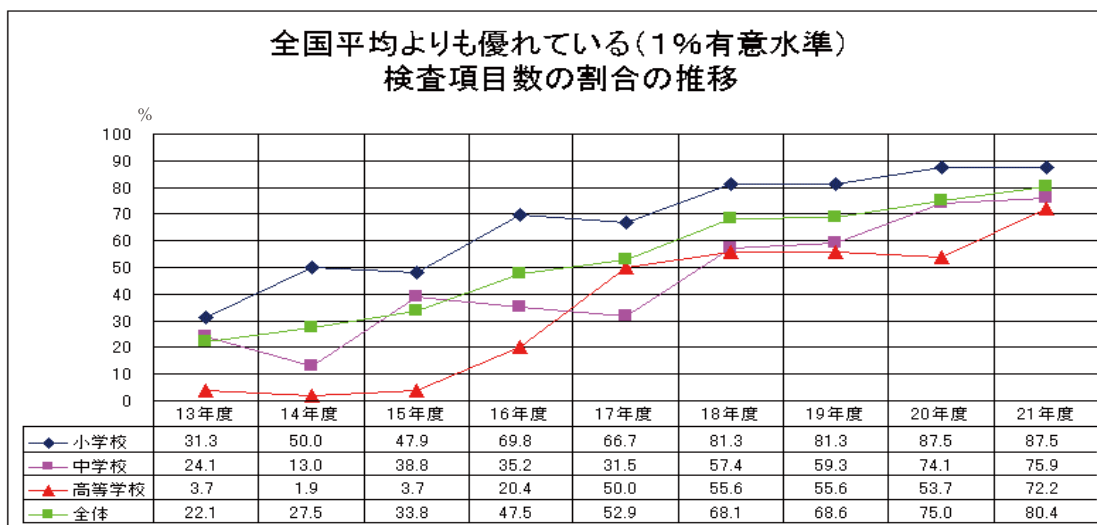


図7 新体力テストにおける全国平均と本県児童生徒平均の比較【秋田県の学校体育・健康教育資料集より】



図8 子どもの体力・運動能力向上に係る事業（秋田県教育委員会）より

しかし、こうした中、本県の児童生徒において、運動に興味をもち活発に運動する者とそうでない者の二極化傾向や、かけっこ・水泳・逆上がりなどの運動技能の低下傾向もみられる。

また、肥満傾向児の出現率については、北海道・東北地区は全国平均に比べて高い傾向にある中、本県は、小・中・高校において、中学2年男子を除く全ての学年で全国平均を上回っている（平成20年度文部科学省学校保健統計調査結果）現状もある。

これらの状況を踏まえ、今後、子どもたちの心身の健全な発達と体力・運動能力の維持・向上を図っていくためには、生活習慣病予防や望ましい生活習慣の観点から、健康教育や食育の面からの総合的な取組も含め、体力・運動能力向上のための施策を推進していく必要がある。

## 施策

### ①子どもの体力向上と健康の保持増進のための取組の推進

- 児童生徒の体力等の状況を把握し、体育・健康に関する指導の改善に活用する





ため、全国体力・運動能力等調査及び新体力テストを実施するとともに、その結果から児童生徒の体力と運動習慣等の関係を分析・検証し、学校や地域における体力向上の取組を推進する。

- 「ライフスタイル調査」等から得られる子どもたちの生活習慣の状況を分析し、家庭や地域からの協力を得るための啓発活動の充実を図る。
- 肥満傾向の子どもへの対応等を含め、体育指導、健康教育、食育等の場における関連事業の実施等により、総合的な対策を推進する。

#### ②<sup>\*</sup>教科外体育の充実

- 子どもたちが夢と希望を持ち、運動・スポーツを積極的に行おうとする意欲と実践的態度をはぐくむため、県出身のトップアスリート等を学校行事等へ派遣し、直接話を聞いたり指導を受けたりすることのできる機会づくりを進める。
- 指導資料や啓発用ポスター等を通じて、<sup>\*</sup>「業前・業間運動（授業前と休み時間）」や<sup>\*</sup>「てくてくとく歩く歩いて学校へ行こう運動」などの取組の充実を図る。

#### ③冬期における体力向上の取組の推進

- 自然との関わりの深いウィンタースポーツにおいて、スキー教室等を実施している学校に対する支援を行うなど、冬期における体力向上のための取組を推進する。

### (3) スポーツ活動ができる環境の充実

**目標** 子どもたちのスポーツに対する思いや願いが充足できるよう、運動部活動等の環境の充実を図る。

#### 現状と課題

現在、子どもがスポーツをする主な活動単位は、小学生を中心としたスポーツ少年団、中・高校生を中心とした学校における運動部、校種や年齢に関わらず、スイミングスクール、道場、クラブといった単一競技の活動母体等がある。

本県におけるスポーツ少年団には、平成20年度、小・中・高校生合わせて2万人を超える子どもが登録しており、小学生においては全体の37.6%の子どもが登録し活動している。また、運動部活動への入部率は昭和63年以降ほぼ横ばい状態だが、高校男子における入部率は年々増加傾向にあり、活発な活動が展開されている。

しかし一方では、少子化等による団員や部員の減少のためチームを組めない団や部が生じたり、活動に制限が出たりするなどの現象が起きている。さらに、進学した学校で、自分のやりたい競技種目の部活動がない、担当競技の指導経験のない指導者が増加している、指導者の高齢化がみられるといった問題や、校務多忙化により指導時間の確保が難しいという状況も生じてきている。

また、創設以来約半世紀にわたり、本県の青少年の健全育成とスポーツの普及振興のために邁進し、本県のスポーツ振興の一翼を担っているスポーツ少年団においては、昨今、一部で活動が過熱気味のため、保護者の負担感から入団を見合わせるといった状況も聞かれる。

こうしたことから、子どもたちのスポーツに対する思いや願いを充足できるよう、指導者の確保や資質の向上、活動できる場の保証といった環境を整えることが重要である。

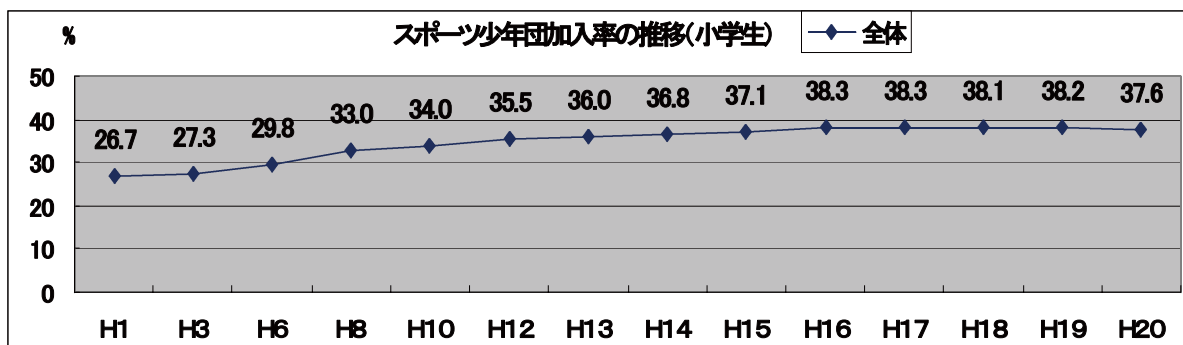


図9 スポーツ少年団加入率の推移 (小学校)【平成20年度秋田県の学校体育・健康教育資料集】より

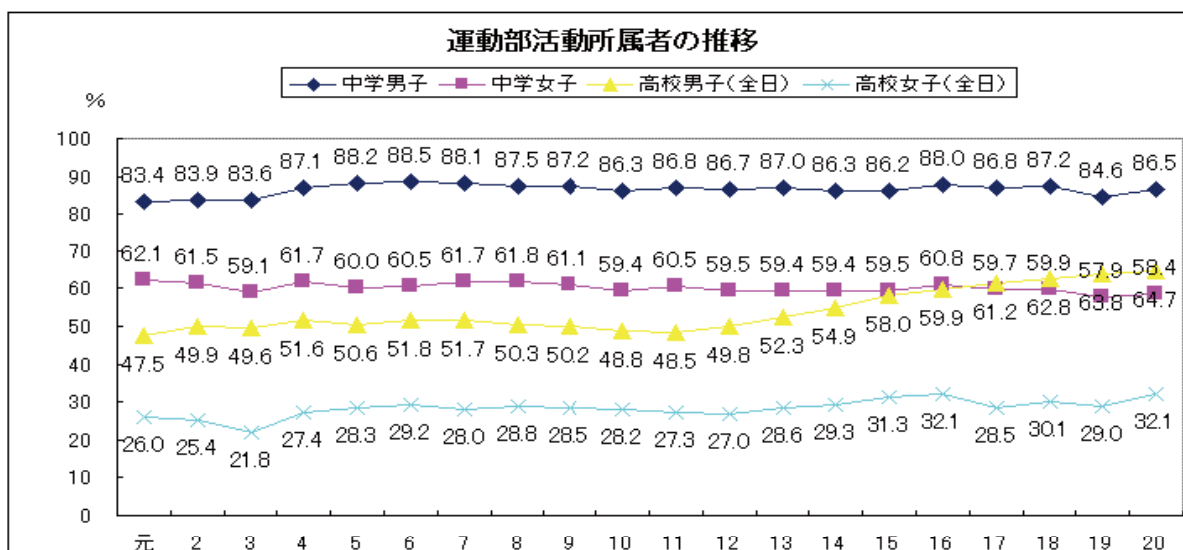


図10 運動部活動所属率の推移 (中・高等学校)【平成20年度秋田県の学校体育・健康教育資料集】より

## 施策

### ①指導者の育成と資質向上

- 指導者研修会等を通して、科学的な見識を持ち、子どもたちにスポーツの魅力や優れた技能、スポーツマンシップ等を指導できる指導者の育成と資質向上に努めるとともに、適切な部活動運営を促進する。

### ②外部指導者の派遣

- 教員の適正配置を図るとともに、地域の人材を活用した外部指導者派遣の事業等を通して、運動部活動の充実を図る。

### ③複数校合同部活動の奨励

- 市町村合併により実効性が高まった複数校合同部活動について、市町村教育委員会等への啓発を行うことで、中学校で活動したい競技種目がない生徒の問題の解決を図る。

### ④家庭や地域との連携

- 総合型地域スポーツクラブと連携し、子どもたちが気軽にスポーツに取り組める場の確保を図るとともに、より充実したスポーツ活動を実現するため、学校・家庭・地域の連携を促進させる。



## 4 スポーツ環境の充実

☆県民のスポーツ活動を支える組織の充実・施設の活用を図ります。

### (1) スポーツ振興のための体制整備

**目 標** 平成22年度から知事部局に設置される「スポーツ振興課」の下、スポーツ振興を一元的・総合的に推進し、教育委員会及び関係団体等と連携して「スポーツ立県あきた」の推進体制を整備する。

#### 現状と課題

スポーツ王国復活に向けた取組の強化、生涯スポーツの振興、健康で豊かな生活の実現、プロスポーツの振興によるスポーツビジネスの拡大や秋田の情報発信などによる、元気と活力のある秋田を目指し、平成21年9月2日に「スポーツ立県あきた」を宣言した。

こうした「スポーツ立県あきた」への取組を強力に進めていくためには、スポーツ振興について一元的・総合的な取組が必要である。現在スポーツに関する事務は教育庁保健体育課が行っている。プロスポーツやクラブチームの振興に関する事務は地域振興の観点から知事部局である総合政策課が所掌している。

スポーツの振興は、教育だけにとどまらず、地域経済や地域の活性化、健康福祉の増進など多くの分野に関わることから県全体で取り組む必要があり、知事部局で所掌することが効果的である。

平成19年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正では、地域づくり等の観点から、条例で定めるところにより、スポーツに関する事務(学校における体育に関するものを除く。)を地方公共団体の長が管理執行できるようになった。(平成20年4月施行)こうしたことから、岡山県、東京都、福島県をはじめとして、条例によりスポーツに関する事務を知事部局へ移管する都県が出てきている。(8都県)

また、平成20年12月の「第22期秋田県スポーツ振興審議会」答申においても、スポーツ行政の教育委員会から知事部局への移管が提言されている。

このような状況を踏まえ、本県では、「スポーツに関する事務の管理及び執行の特例に関する条例」(平成21年秋田県条例第88号)により、平成22年4月から、学校体育を除き教育委員会が行うスポーツに関する事務は知事が行うこととされるとともに、「秋田県部等設置条例の一部を改正する条例」(平成21年秋田県条例第79号)により、企画振興部の分掌事務としてスポーツに関する事項が規定されたところである。

平成22年度からは、企画振興部に設置されるスポーツ振興課の下、スポーツ振興を一元的・総合的に推進するとともに、教育委員会及び関係団体等と十分に連携を図る必要がある。

#### 施 策

- ①知事部局に設置される新たな組織の下でのスポーツ振興の一元的・総合的な推進
  - 「スポーツ振興に関する総合的な企画・調整」や「スポーツ振興による地域の活性化」といった新たな視点から、平成22年度から設置される「スポーツ振興課」の下、スポーツ振興を一元的・総合的に推進する。



②知事部局と教育委員会及び関係団体等との連携強化

○教育委員会で所掌する学校体育（中学・高校の運動部活動等）との一貫したスポーツ振興体制強化のため、知事部局と県教育委員会との人事交流、関係事業の共同実施、情報交換の場の設定、中体連・高体連と各競技団体等が十分連携した選手強化の実施、スポーツ関連事務の窓口の明確化と関係方面への周知徹底など、十分な連携を図る。

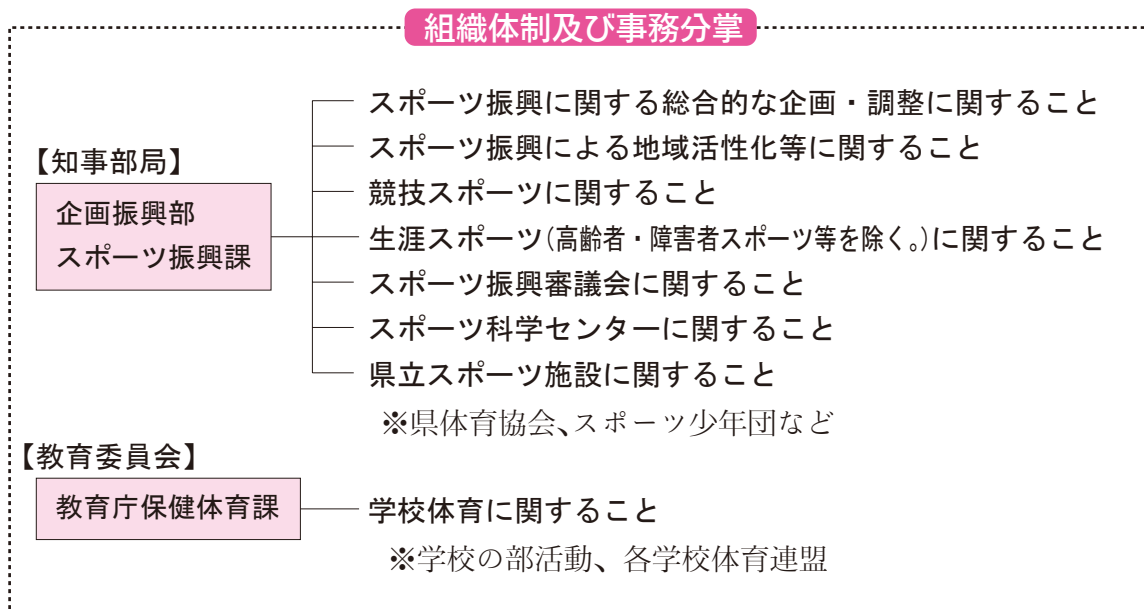


図11 スポーツ振興のための組織体制及び事務分掌

(2) スポーツ振興を支える組織の充実・連携やボランティア団体の育成

**目標** スポーツ振興を支える各組織の活動基盤の充実・連携を図るとともに、スポーツライフの創出や競技大会の運営をサポートするボランティア団体の育成とネットワークづくりを目指す。

**現状と課題**

これまで、秋田県のスポーツの振興を支えてきたのは、県体育協会をはじめ各競技団体、<sup>\*</sup>県体育指導委員連絡協議会、各学校体育連盟、県スポーツ少年団、県障害者スポーツ協会、県レクリエーション協会等の各関係団体の多くの方々の熱い思いと着実な取組である。県は、これらの関係団体の育成・連携を図りながら、共にスポーツ振興をするための取組を行ってきた。

しかしながら、近年の厳しい財政事情により、各予算が削減される一方、業務はそのままであることから、人的・財政的基盤がぜい弱になってきている。また、スポーツに対する人々の関わり方も多様化してきていることから、情報の共有化や関係団体相互の連携強化が求められる。さらに、スポーツライフの創出や競技大会の運営などをサポートするボランティア団体の育成とネットワーク化等、新たな組織の充実も課題である。





## 施 策

- ①スポーツ振興を支える各組織の活動基盤の充実
  - 各組織の活動基盤の充実を図るため、補助金・業務委託等の予算確保を含めた検討を行いながら、連携を強化する。
- ②スポーツを支えるボランティア団体の育成
  - 県ホームページ等による、ボランティア団体のメンバー募集や活動紹介を通じた組織基盤等の確立とネットワークづくりの支援を行う。
  - スポーツ大会やスポーツイベントの情報収集と提供により、活動の活性化を図る。

### (3) 県内スポーツ施設の有効活用・充実

**目 標** 利用状況等の情報提供による利便性の向上を図るとともに、施設の設置者や指定管理者と協力し、各スポーツ施設の充実により、利用者数の増加を図る。

#### 現状と課題

秋田わか杉国体開催を契機として、新たな県有スポーツ施設や既存施設について整備・改修が行われてきた。

県では、充実したスポーツ環境を提供するため、県有スポーツ施設の改修を今後も進めていく。このほか、安全で安心な施設を提供するための維持補修も継続していく予定であるが、そうした維持管理のための費用確保が厳しい状況になってきていることも事実である。

そのため、対応策として各施設の適正な使用はもとより、一層創意工夫した活用が求められる。特に、ソフト、ハード対策を指定管理者とも連携を図りながら進めていく必要がある。

ソフト対策として、スポーツ教室の開催や国内外のトップクラスのスポーツ大会などの企画の推進が求められる。

また、ハード対策として、安全で安心なスポーツイベントを開催するための既存施設の維持管理の充実や、人工芝の検討も含め本県の気候条件も加味した施設整備のほか、全国規模の大会やプロの公式戦が開催できるよう、利用者ニーズや交通アクセスなどの利便性も踏まえた施設整備・改修の取組が必要である。特に、施設整備や改修においては、競技する選手やスポーツイベントに参加する利用者のほか、観客も充実感を味わえるような視点が求められる。

## 施 策

- ①県内スポーツ施設を有効活用するためのネットワーク化
  - 全県的なスポーツ施設のネットワークづくりを推進し、県内外の各種スポーツ情報の提供に努めるほか、インターネットを活用した施設の予約システムの検討などを行い、スポーツ施設を身近で親しみやすいものにする取組を進める。
- ②魅力あるスポーツ施設の整備と改修
  - 施設を利用する選手たちが、最高のコンディションで競技できる環境はもちろん、観客へも充実感を与えることのできる機能を有する、魅力あふれる施設の整備や改修を推進する。
  - 平成21年度から23年度にかけて、県営陸上競技場と県営球技場の芝生改修を



実施するとともに、今後も充実したスポーツ環境を提供するための整備を進める。

### ③ スポーツプログラムの充実と共有化

- 県民のニーズに応えるスポーツ教室・セミナーを開設し、誰もが気軽に継続して参加できるプログラムの展開を促進するとともに、国内外のトップクラスのスポーツ大会を企画するなど、県民に夢と感動をもたらす機会を設定する。

### ④ 選手強化体制とリンクした施設の計画的利用

- 各種競技の特殊性を踏まえた練習場所の確保や、強化練習を考慮した計画的利用を検討する。

## (4) スポーツ振興に尽力された方の表彰制度の整備

**目標** スポーツの文化的価値を高め、スポーツへの積極的な関わりを奨励するための表彰制度を整備する。

### 現状と課題

スポーツの振興に尽力された方々に対する表彰制度は、敬意と感謝の意を表し、その功績を永く讃えるだけでなく、スポーツの文化的価値を高め、後進の更なる精進を啓発する上でも重要なものである。

現在本県において、スポーツ振興に寄与しその功績が顕著な方に対する表彰は、県体育協会による<sup>\*</sup>秋田県スポーツ賞・<sup>\*</sup>人見スポーツ賞・<sup>\*</sup>畠沢国体賞・<sup>\*</sup>辻ジュニアスポーツ大賞があり、その歴史的意義は誠に大きいものがある。

一方で、文部科学大臣表彰の推薦にあたり、生涯スポーツの普及及び発展に貢献したスポーツ関係者及び団体に対する県としての表彰制度の創設が求められていることもあり、今後は、表彰制度のさらなる効果を高めるために、各スポーツ賞の総合的な見直しを含めた検討が必要である。

### 施策

#### ① 本県スポーツの振興に尽力された方に対する表彰制度の整備

- 県体育協会と調整しながら、生涯スポーツに関する表彰制度の創設も含め、県としての表彰制度を整備する。

## 5 スポーツ振興による地域の活性化

☆スポーツを通じた秋田の元気づくり・活力の創出に努めます。

### (1) プロスポーツ、スポーツビジネス、クラブチームの振興

**目標** プロスポーツ、クラブチームの支援により、スポーツビジネスや関連産業の振興などによる地域活性化、地域の一体化のほか、競技力の向上、スポーツ人口のすそ野の拡大を図る。



### 現状と課題

本県では、平成21年5月、「秋田プロバスケットボールクラブ株式会社」の日本プロバスケットボールリーグ「bjリーグ」への参入が決定し、県内初のプロスポーツチームが誕生する予定である。

また、TDKサッカー部は、来シーズンからJFL（日本フットボールリーグ）にクラブチームとして参戦するため、平成21年9

月、新たな運営組織である「秋田フットボールクラブ株式会社」が設立され、ラグビーの「秋田ノーザンブレッツ」などとともにその活躍が期待されている。

スポーツ観戦は、交通費、宿泊費、飲食費、入場料、お土産購入等の消費に加え、関連業種にまで経済効果が及ぶことが予想される。

また、プロスポーツは新規の雇用機会の創出にもつながるなど、その経済効果は非常に大きく、観光・健康・ファッション・食・アミューズメント・医療など関連するスポーツビジネスへの波及効果も期待される。

さらに、スポーツチームによる、地域交流事業、ボランティア事業、物産PR事業、イベントの開催などは、「地域活性化」、「地域おこし」、「地域文化創出」、「郷土愛の醸成による秋田の一体化」等の面でも地域社会に与える影響は大きい。

特に、国内トップレベルの競技力を有するスポーツチームによるスポーツ教室などによる指導や、トップアスリートのプレーを直接見ることは、競技力の向上とスポーツ人口のすそ野の拡大が図られるなどの効果が十分に期待される。

今後の課題としては、以上のような基盤を確立していくために、プロスポーツ、クラブチームに対する行政からの支援が必要である。



「秋田ノーザンハピネッツ」チーム名発表

### 施策

#### ①施設の使用料減免や日程調整上の優先的な配慮、施設整備等の支援

○関係自治体と連携し、試合会場となるスポーツ施設の使用料減免や日程調整上の優先的な配慮、必要な施設整備等の支援を行う。

#### ②応援機運を高めるための取組への支援

○県民の応援機運を高めるためのフォーラム・イベントの開催、ボランティア事業や地域交流事業の実施、チーム運営を支えるボランティア養成、サポーターズクラブ・ブースタークラブ育成、観客送迎バスの運行などの支援を行う。

#### ③競技力強化や競技人口の拡大につながる取組への支援

○スポーツ教室やクリニックの開催、講師派遣、ユースチーム育成に対する支援を行う。

#### ④県内自治体やNPO等による連携強化

○プロスポーツやクラブチームが広く県民から応援されるためには、県内自治体やNPO等の連携した取組が必要であることから、県・市町村、NPO等による連絡会議を設置し、情報交換や連携を強化する。



### ⑤スポーツビジネスの振興

- 会社側とも協議しながら、スポーツビジネスという新たなステージにふさわしい振興方策について検討し、支援を行う。

## (2) スポーツを通じた秋田の情報発信

**目標** プロスポーツチーム等の試合やスポーツイベント、県外遠征等を活用し、地域特産品及びグッズの販売、観光PRなど秋田の情報発信を図る。

### 現状と課題

「秋田プロバスケットボールクラブ株式会社」が運営する本県初のプロスポーツチーム「秋田ノーザンハピネッツ」は、2010-11年シーズンから日本プロバスケットボールリーグ「bjリーグ」へ参戦する予定である。

シーズンは10月から翌年4月頃まで行われ、16チームが参戦し、ホームゲーム及びアウェイゲームが各26試合行われる予定となっている。

観客数は初年度1試合平均2,200人を想定し、ホームゲームだけで年間約5万7



bjリーグプレシーズンマッチ グッズ販売の様子

千人が見込まれており、地域特産品やグッズの販売等、様々な経済効果のほか、来県する観客に対する観光PRなど、秋田の情報発信効果が期待される。

また、アウェイゲームでは、「秋田」の名を冠したユニフォームやマスコミ等による報道が秋田の情報発信となるほか、物産販売や観光PRなどの取組も考えられる。

クラブチーム「ブラウブリッツ秋田」として、2010年シーズンからJFL（日本フットボールリーグ）に参戦する予定である。

JFLは18チームでリーグが運営されており、シーズンは3月から11月まで行われ、今シーズンはホームゲーム及びアウェイゲームが各17試合開催されている。

サッカーについても秋田の情報発信としての活用が期待できるものであり、将来Jリーグへ参入した場合は、経済効果も含めその影響力は極めて大きなものがある。

### 施策

#### ①県内でのプロスポーツ等の試合やスポーツイベントの活用

- 地元自治体や主催者等と連携し、試合会場やイベント会場での地域特産品及びグッズの販売、観光PRなど、秋田の情報発信につながる取組を推進する。

#### ②県外遠征の活用

- プロスポーツチームやクラブチームのアウェイへの遠征は、秋田の情報発信につながることから、遠征費への支援のほか、ユニフォーム・広告看板によるPR、物産販売、観光PRなど遠征を活用した秋田の情報発信の取組を推進する。





### (3) スポーツを活用した地域づくり

**目標** スポーツ大会やスポーツイベント、合宿、スポーツ交流等の開催・誘致を推進するとともに、スポーツ情報を一元的に提供することにより、県民のスポーツへの幅広い参加を図り、スポーツを活用したまちづくりや賑わいの創出を図る。

#### 現状と課題

県内各地域においては、秋田わか杉国体を契機として様々なスポーツ施設が整備され、秋田の豊かな自然と相まって優れたスポーツ環境を有する市町村が多い。

スポーツによるまちづくりを進めている鹿角市では、平成19年度より(財)地域活性化センターから、スポーツの振興と地域の再生を推進する「スポーツ拠点づくり推進事業」として助成を受け、商店街の公道などを会場とする「全国ジュニアサマーノルディックスキー大会IN鹿角」を開催しており、毎年600名近い選手が参加している。

一方、県外の自治体では、県外の大学生や高校生の合宿を対象にした宿泊費の補助制度を設け、地域活性化への取組を進めているところもある。

こうしたスポーツを通してのまちづくりへの取組は、元気で賑わいのある秋田づくりのために参考となるものである。

今後は本県においても、県民のニーズに応えるスポーツ教室・セミナーといった誰もが気軽に継続して参加できるプログラムの展開に加え、スポーツ施設、宿泊施設等地域が一体となって優れたスポーツ環境をPRし、国内外のトップクラスのスポーツ大会やイベント、合宿等の開催・誘致になお一層努めることが必要である。

#### 施策

##### ①スポーツ大会、スポーツイベント等の誘致

- 本県で開催される、平成23年第66回国民体育大会冬季大会スキー競技会、平成23年全日本学生スキー選手権大会、平成23年度北東北インターハイ、平成24年度東北総合体育大会を成功に導くための取組を強化する。
- こうした全国規模、東北規模等の大規模なスポーツ大会、スポーツイベントの誘致を推進する。

##### ②地域によるスポーツ大会、スポーツイベント等の開催推進

- 地域名等の冠を付けたマラソン大会、ウォーキング大会など、県内自治体や関係団体等地域が一体となって開催するスポーツ大会、スポーツイベント、スポーツ交流等に対して支援を行い、地域の賑わいや活性化の創出を図る。

##### ③県外の大学生や高校生のスポーツ合宿等の誘致

- 合宿等の誘致を行う県内自治体や関係団体等と連携し、学校関係者の合宿地視察・体験ツアー事業の実施や合宿等への支援の検討など、県外の大学生や高校生のスポーツ合宿・キャンプ等の誘致推進を図る。

##### ④地域のスポーツ情報提供

- 地域で開催されるスポーツ大会、スポーツイベント、スポーツ教室・セミナー等、スポーツに関する情報を一元的に提供し、県民のスポーツへの幅広い参加を推進する。

## 第Ⅲ章 計画実現に向けた体制とスケジュール



### 1 計画実現に向けた体制

計画を具現化するため、県庁内の関係部局による機能的な取組をはじめ、県内市町村との連携のほか、県内スポーツ施設やスポーツNPOなどの民間とも連携を取りながら進める。

#### (1) 組織体制

平成22年度から、知事部局（企画振興部）に設置される「スポーツ振興課」の下、スポーツ振興を一元的・総合的に推進するとともに、県庁内の関係各課及び教育委員会と連携して「スポーツ立県あきた」を推進する。

#### (2) 県と市町村との協力・連携

本計画の趣旨を踏まえ、各市町村がそれぞれの状況に応じて県と協力・連携し、計画を効率的かつ効果的に推進することで、県全体で総合的なスポーツ振興を図る。

#### (3) 県内スポーツ施設の柔軟な管理・運営体制

県内のスポーツ施設が、それぞれ地域のニーズや施設の特性を活かし、利用者の満足度を高める柔軟な管理・運営に努める。

#### (4) 企業やスポーツNPO（民間非営利団体）との連携

これまでも積極的にスポーツに関わっている企業との協力・連携を深めるとともに、他の企業に対しても、スポーツへの理解と協力を広めていく。

また、スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブなどが、組織的にスポーツ振興に携わることができるよう、NPO法人資格取得等への支援をするとともに、それらの団体との協力・連携体制を構築する。

### 2 計画推進に向けた広報

広く県民に計画の実現に向けた参画を呼びかけるため、様々なメディアや機関を通じて広報活動を積極的に行う。

#### (1) 計画実現に向けたPRの実施

地域をあげてスポーツを広げていく気持ちを喚起していくことが重要であり、各種スポーツ大会やイベントの場、学校や県内スポーツ施設、公民館などの関連施設において、地域の課題に対応したPR（広報）を実施し、県民に対しても計画実現に向けた働きかけを行う。

#### (2) スポーツ大会・イベントなどの場を通じた広報

プロスポーツチームなどの試合をはじめ、各種スポーツ大会やイベントの場を活用した広報活動を推進する。

#### (3) 学校などを通じた広報

小・中・高校や保育所・幼稚園において、児童生徒や幼児の保護者を対象とした講習会などを開催するとともに、その活動を学校広報誌を通じて、スポーツの重要性や計画の理念などについて各家庭に対する理解を求めていく。

#### (4) 地域に密着したメディアによる広報

県内の各メディアと協力・連携し、テレビやラジオ、新聞、雑誌などを通じて、計画の取り組み状況や具体的施策の内容、地元スポーツ情報などについて、広く県民に向けた広報活動を推進する。



(5) インターネットなどを通じた広報

本計画及びスポーツ行政全般に関するホームページを開設し、インターネットを通じて広く県民から計画についての意見や質問を受け付けるとともに、学校・家庭・地域社会・行政などが相互に自由な意見交換を行える仕組みづくりを進める。

### 3 計画実現に向けた各施策のスケジュール

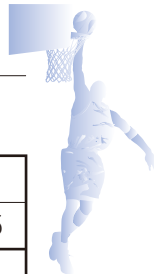
各施策の実施計画は次の通りとし、適宜、進捗状況を把握するとともに、秋田県スポーツ振興審議会において検証していく。

施 策 内 容		実施期間年度				
		21	22	23	24	25
1 生 涯 ス ポ ー ツ の 振 興	<b>(1)総合型地域スポーツクラブの設立・育成の推進</b>					
	①地域住民等の意識啓発のための活動の推進	■	■	■	■	■
	②総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の充実	■	■	■	■	■
	③人材の発掘・育成支援	■	■	■	■	■
	④既存クラブ等の団体からの発展	■	■	■	■	■
	<b>(2)広域スポーツセンター機能の充実</b>					
	①総合型地域スポーツクラブの設立・育成及び活動に関する支援	■	■	■	■	■
	②総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャー・指導者の育成に関する支援	■	■	■	■	■
	③関係機関・団体等との連携の強化	■	■	■	■	■
	④スポーツに関する情報やクラブ運営ノウハウ等の情報の積極的な提供と啓発活動	■	■	■	■	■
	<b>(3)高齢者スポーツの振興</b>					
	①スポーツ・健康教室等の開催	■	■	■	■	■
	②指導者育成に関する支援	■	■	■	■	■
	③ねりんピック参加者等への支援	■	■	■	■	■
	④老人クラブ等への支援	■	■	■	■	■
	⑤高齢者スポーツの効能の啓発	■	■	■	■	■
	<b>(4)障害者スポーツの振興</b>					
	①指導者の養成及びスキルアップ支援	■	■	■	■	■
	②障害者スポーツの情報発信	■	■	■	■	■
	③障害者スポーツ競技会・教室の開催	■	■	■	■	■
	④スポーツ施設のバリアフリー化	■	■	■	■	■
	<b>(5)健康づくり運動の推進</b>					
	①健康教育の充実		■	■	■	■
	②運動習慣定着化の推進	■	■	■	■	■
③環境整備の推進		■	■	■	■	
<b>(6)地域で活躍できる指導者・スタッフの育成</b>						
①研修会・講習会の充実	■	■	■	■	■	
②指導者の有効活用	■	■	■	■	■	



施策内容		実施期間年度				
		21	22	23	24	25
2 競技スポーツの振興	<b>(1)選手の夢をはぐくむことができる指導者の確保・育成</b>					
	①教員枠以外の職員採用					
	②指導力のある部活動指導者の確保と適正配置					
	③トップアスリート等の活用の推進					
	④研修機会の確保等による指導者資質の向上					
	<b>(2)国内外のひのき舞台で活躍できるアスリートが育つ選手強化体制の整備・拡充</b>					
	①スポーツ王国づくり強化学業の推進と効果的運用					
	②タレント発掘等ジュニア層の育成と強化					
	③高校生トップアスリートサポート事業（スポーツ奨学金制度）の推進					
	④地域の特徴を生かした高校の整備					
	⑤平成23年度北東北インターハイに向けた強化					
	<b>(3)スポーツ医科学を活用した競技力向上支援システムの確立</b>					
	①スポーツ医科学を活用した競技力向上支援システムの充実					
	②スポーツ医科学の拠点機能の充実					
③トレーナー等のサポートスタッフの育成と確保						
④ドーピング防止に関する教育・研修						
3 子どものスポーツ活動の充実	<b>(1)学校体育の充実</b>					
	①体育・保健体育学習の充実に関する事業の推進					
	②各種研修会の充実					
	③学校訪問の充実					
	<b>(2)子どもの体力・運動能力の向上</b>					
	①子どもの体力向上と健康の保持増進のための取組の推進					
	②教科外体育の充実					
	③冬期における体力向上の取組の推進					
	<b>(3)スポーツ活動ができる環境の充実</b>					
	①指導者の育成と資質向上					
②外部指導者の派遣						
③複数校合同部活動の奨励						
④家庭や地域との連携						





施策内容		実施期間年度				
		21	22	23	24	25
4 ス ポ ー ツ 環 境 の 充 実	<b>(1)スポーツ振興のための体制整備</b>					
	①知事部局に設置される新たな組織の下でのスポーツ振興の一元的・総合的な推進	■	■	■	■	■
	②知事部局と教育委員会及び関係団体等との連携強化	■	■	■	■	■
	<b>(2)スポーツ振興を支える組織の充実・連携やボランティア団体の育成</b>					
	①スポーツ振興を支える各組織の活動基盤の充実	■	■	■	■	■
	①スポーツを支えるボランティア団体の育成	■	■	■	■	■
	<b>(3)県内スポーツ施設の有効活用・充実</b>					
	①県内スポーツ施設を有効活用するためのネットワーク化		■	■	■	■
	②魅力あるスポーツ施設の整備と改修	■	■	■	■	■
	③スポーツプログラムの充実と共有化		■	■	■	■
	④選手強化体制とリンクした施設の計画的利用		■	■	■	■
	<b>(4)スポーツ振興に尽力された方の表彰制度の整備</b>					
	①本県スポーツの振興に尽力された方に対する表彰制度の整備	■	■	■	■	■
5 ス ポ ー ツ 振 興 に よ る 地 域 の 活 性 化	<b>(1)プロスポーツ、スポーツビジネス、クラブチームの振興</b>					
	①施設の使用料減免や日程調整上の優先的な配慮、施設整備等の支援	■	■	■	■	■
	②応援機運を高めるための取組への支援	■	■	■	■	■
	③競技力強化や競技人口の拡大につながる取組への支援		■	■	■	■
	④県内自治体やNPO等による連携強化	■	■	■	■	■
	⑤スポーツビジネスの振興		■	■	■	■
	<b>(2)スポーツを通じた秋田の情報発信</b>					
	①県内でのプロスポーツ等の試合やスポーツイベントの活用		■	■	■	■
	②県外遠征の活用		■	■	■	■
	<b>(3)スポーツを活用した地域づくり</b>					
	①スポーツ大会、スポーツイベント等の誘致	■	■	■	■	■
	②地域によるスポーツ大会、スポーツイベント等の開催推進		■	■	■	■
	③県外の大学生や高校生のスポーツ合宿等の誘致		■	■	■	■
④地域のスポーツ情報提供		■	■	■	■	



## 4 計画実現を担う主役は県民のみなさん

計画の実現には、県民のみなさんをはじめ、関係機関や民間企業などによる主体的な取組と協力が不可欠です。スポーツを通じた秋田の元気づくりと地域の活性化、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくり、競技力の向上など、「スポーツ立県あきた」を県民運動として展開し、本計画を実現させていくために、以下のような活動にご協力をお願いします。

### (1) 県民のみなさん

県民のみなさん、生涯を通じて豊かなスポーツライフを実現し、元気で活力ある秋田をつくるため、一人ひとりの能力や関心に応じて、「する」「みる」「ささえる」などのそれぞれの形でスポーツに積極的に参加してください。また、自らが培った能力や技術を学校や地域のスポーツ活動に提供してください。

### (2) スポーツ指導者のみなさん

各競技団体等の指導者や体育指導委員のみなさん、そして地域においてスポーツ指導者として活動されているみなさん、これからも指導活動に情熱を注いで頂くとともに、研修会等に積極的に参加するなど指導技術等の研鑽にも努めてください。

また、総合型地域スポーツクラブの育成など、地域におけるスポーツ環境整備にも協力してください。

### (3) 児童生徒のみなさん

児童生徒のみなさん、学校での体育・保健体育の学習や体育的活動をはじめ、スポーツ少年団・運動部活動やクラブ・サークル等でスポーツ活動へ積極的に取り組み、体力の向上や健康の保持増進を図るとともに、体を動かす楽しさを体感し、生涯にわたるスポーツ活動の基礎を培ってください。

### (4) 大学生・専門学校生のみなさん

大学生・専門学校生のみなさん、自らのスポーツ活動の充実に努めるとともに、後輩の指導を含め、地域のスポーツ活動にも積極的に参加してください。

### (5) 小さな子どもや児童生徒の保護者のみなさん

保護者のみなさん、子どもの心身の発達の段階とスポーツ活動がもつ大切な価値を理解し、親子でスポーツを積極的に行うとともに、学校や地域のスポーツ活動に様々な形で参加してください。

### (6) 保育士・教職員のみなさん

保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援教育諸学校の保育士・教職員のみなさん、心身ともに健全で健康な子どもたちを育むため、日頃の教育活動の充実とともに、これからも地域スポーツの振興に力を貸してください。

### (7) トップアスリート（選手）のみなさん

トップアスリートのみなさん、トップアスリートを目指して頑張っている選手のみなさん、県として、様々な形でサポートしますので、自分の持つ才能を伸ばし、トップレベルで活躍できるよう努めてください。また、自らが培った能力や技術を学校や地域のスポーツ活動に提供してください。

### (8) 体育協会、スポーツ団体のみなさん

体育協会、スポーツ団体のみなさん、スポーツのすそ野の拡大とスポーツ王国復活のため、各競技の普及と競技力の向上に一層努めてください。また、県とし



でも限りある財源の中で出来る範囲で支援しますが、自主財源の強化に努めるとともに効率的な運営を目指してください。

(9) スポーツを支えてくださるみなさん

スポーツを支えてくださるみなさん、スポーツボランティア活動や応援等を通じて自らの豊かなスポーツライフを創造するとともに、スポーツを秋田の文化として高めていけるよう、スポーツ活動を支えてください。

(10) 大学や医・科学界のみなさん

スポーツに関する研究や医療などに携わっているみなさん、国際的な選手の育成、総合型地域スポーツクラブや学校体育・スポーツ等の充実のために、研究成果や技術・知識等を様々な形で提供してください。

(11) 企業・団体みなさん

企業や様々な団体みなさん、スポーツに関する施設や人材の確保に努めるとともに、学校や地域のスポーツ活動のために可能な範囲で提供してください。また、働く人々がライフスタイルを充実させるため、総合型地域スポーツクラブや生涯スポーツなどに参加することを支援してください。

(12) メディアに携わるみなさん

秋田県や各市町村に密着した新聞、テレビなどのメディアに携わるみなさん、「スポーツ立県あきた」を県民運動として盛り上げるため、様々な機会をとらえて、本計画やスポーツ行政、本県選手の活躍、地域・学校のスポーツなどの情報を県民に伝えてください。





## ○用語等解説

頁	用語等	解説
3	・「タレント発掘事業」	<p>平成19年度から、文部科学省委託事業「国際舞台で活躍するアスリート輩出のためのタレント発掘モデル事業」を受託し、「AKITA スーパーわか杉っ子発掘プロジェクト」として取組をすすめ3年目の事業。平成21年度から「体育学習塾」をイメージした「ジュニアチャレンジスクール」を開校し、プログラムが本格的に開始している。</p> <p>本県では、競技人口は少ないもののこれまで国際舞台で活躍している選手やコーチを数多く輩出するとともに、小学生から成人までの一貫指導に取り組み成果を上げているフェンシング競技をモデルとして、選手の発掘・育成の効果的なプログラムを構築する。</p> <p><b>発掘から育成の流れ</b></p> <p>〈発掘・選別〉 → 〈育成〉 → 〈トップアスリート〉</p> <p>発掘・選別: スジュニアチャレンジ (小学3・4年生) → オ디션 (選考会議) (小学3・4年生) → 育成プログラム (小学4年生～高校生) → エリートアカデミー (ナショナルトレイニングセンター) → ナショナルチーム (オリンピックメダリスト、日本代表選手)</p> <p>各ジュニアチーム (二ツ井・合川・秋田・県南地区) は育成プログラムに接続している。</p>

・「諸施策」

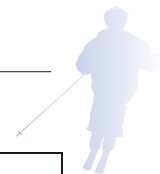
「学校体育」に関する事業の関連について

No.	事業名等	パワーアップ 元気100倍 秋田っ子運動						体力つくり 秋田 コラボレーションプラン			備考
		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	
1	体育実務補助指導者派遣事業	○	○	○	○	○	○	○	○		県費・H12～
2	百名スポーツ選手派遣事業		○	○	○						県費
3	高校教員等派遣事業				○	○	○				県費
4	体育学習メンソアップ事業							○	○		県費
5	体育学習テクニカルサポート事業									●	国費
6	てくてくとく(歩いていこう運動)		○	○	○	○	○	○	○	○	県費(0千円)等
7	○ 児童ポスターの配布					○	○	○	○	○	県費(50,000円)
8	小・中学校体育主任研習会	○	○	○	○						県費・H17～
9	小・中・高等学校体育主任研習会					○	○				県費
10	小・中・高等学校体育指導者研修協議会							○	○	○	県費(72,000円)
11	新体力テストの全国実施		○	○	○	○	○	○	○	○	県費(0千円)等
12	全国体力・運動能力・運動習慣等調査									●	国費
13	学校体育・健康教育資料費	○	○	○	○	○	○	○	○	○	県費(93,200円)・532～
14	指導の手引等		○	○	○		○	○	○	○	県費・国費
「運動部活動」に関する事業の関連について											
15	スポーツエースパート活用事業		○	○	○	○	○	○	○	○	県費(1,082千円)等
16	体育指導者の研修・委託・活用等の促進に関する調査研究							●	●		国費・14千円(前掲)により実施
17	運動部活動テクニカルサポート事業									●	国費・14千円(前掲)により実施

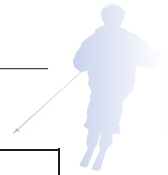
5	・「県民の代表」	<p>1 佐竹 敬久 秋田県知事</p> <p>2 鈴木 洋一 財団法人秋田県体育協会 会長</p> <p>3 柳田 英明 ミュンヘンオリンピック金メダリスト (レスリング57kg級)</p> <p>4 野中 歌子 秋田県体育指導委員連絡協議会 会長</p> <p>5 水野 勇気 秋田プロバスケットボールクラブ株式会社 代表取締役社長</p>
---	----------	--



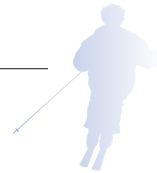




頁	用語等	解説
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康運動指導士」</li> <li>-----</li> <li>・「地域健康づくりサポーター」</li> <li>-----</li> <li>・「健康づくりマネージャー」</li> <li>-----</li> <li>・「ウォーキングマップ」</li> <li>-----</li> <li>・「有酸素運動」</li> </ul>	<p>昭和63年から厚生大臣の認定事業として、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う。</p> <p>県の「スポーツ・運動を通じた日本一健康な県づくり運動」により、町内会等でウォーキングと体操を定期的実施するなどの活動を行う、地域における健康づくり県民運動推進の担い手。</p> <p>県の「スポーツ・運動を通じた日本一健康な県づくり運動」において、企業・事業所等の職場での体操の定期的な実施や徒歩通勤の奨励等の活動を行う、職場における健康づくり県民運動推進の担い手。</p> <p>ウォーキングのコースについて、わかりやすいように地図や図面上で示したもの。</p> <p>ゆっくりと呼吸して酸素を摂取しながら継続して長時間できる運動。脂肪を燃焼させるのに効果的で、身体の大筋肉を使う。ウォーキング、ランニング、水泳、エアロビクス、ダンスなど。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生涯学習支援システム」</li> </ul>	<p>秋田県内の生涯学習情報（県関係機関、市町村、機関・団体、学校等主催）を県民にインターネットを介して提供するシステム</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会人特別選考」</li> <li>-----</li> <li>・「アドバイザー招聘事業」</li> <li>-----</li> <li>・「テクニカルアドバイザー」</li> <li>-----</li> <li>・「長期研修派遣」</li> </ul>	<p>秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の志願種別の一つで、教員免許状の所有を前提としない選考。平成22年度の選考試験では、中学校教諭等（英語）・高等学校（外国語・保健体育・博士号保有者）で実施。</p> <p>県スポーツ王国づくり強化事業の中の詳細事業の一つで、中央競技団体と連携を図ることの出来る著名なコーチを専任のアドバイザーとして定期的に招聘し指導力と競技力の向上を図るもの。</p> <p>県スポーツ王国づくり強化事業の中の詳細事業の一つで、(財)秋田県体育協会に、優れた競技技術を有する選手兼指導者を配置し、県内の高校や体育施設を拠点に、部活動の指導等に活用する。</p> <p>県教育委員会で行っている「教員長期社会体験研修派遣事業」。運動部活動の指導者である高校教員を、当該競技で優れた実績を収めている企業に、一定期間研修に派遣し、豊かな人間性や広い視野に立った教育力や実践力を育成するとともに、指導法等の習得を通して、県内の指導者の資質向上を図るもの。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スポーツ王国づくり強化事業」</li> </ul>	<p>競技力の向上によるスポーツ王国秋田の実現に向け、従来、競技団体の行う強化練習や合宿事業等への助成等を行ってきた「スポーツ選手強化対策事業」の名称を変更して、国内外のひのき舞台上で活躍できるアスリートが育つ選手強化体制の整備・拡充等を図るもの。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「メディカル」</li> <li>-----</li> <li>・「コンディショニング」</li> <li>-----</li> <li>・「ニュートリション」</li> <li>-----</li> <li>・「フィジカル」</li> <li>-----</li> <li>・「メンタル」</li> <li>-----</li> <li>・「ドーピング」</li> <li>-----</li> <li>・「財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）」</li> <li>-----</li> <li>・「トレーニングアドバイザー」</li> </ul>	<p>医学に関連すること</p> <p>体調面に関連すること</p> <p>栄養学に関すること</p> <p>身体面に関すること</p> <p>精神面に関すること</p> <p>スポーツなどの競技で好成績を挙げるためにステロイドホルモンなどの薬物を投与したり、その他の物理的方法を採ったりすること。</p> <p>日本オリンピック委員会（JOC）、日本体育協会（JASA）、日本プロスポーツ協会（JPSA）を中心にして、2001年創立され、日本国内のドーピング検査やドーピングに関する啓発活動を行う、中立的な国内調整機関。</p> <p>フィジカル・コンディショニング及びメンタルに関する専門知識を持った人材が各競技団体へ巡回指導し、競技力向上を図る制度（担当者）。県スポーツ科学センターへ2名配置。</p>
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体育実技補助指導者派遣事業」</li> <li>-----</li> <li>・「体育学習センスアップ事業」</li> </ul>	<p>体育授業における実技指導の補助を行う外部指導者として、小・中・高校を対象に、地域の人材を派遣する事業。（H12～H19県単事業）</p> <p>小・中学校へ教育専門監及び高等学校教員等を派遣しチーム・ティーチング（T・T）を行い、児童生徒の技能の向上とつまづきへの対応を目指す。小・中学校に大学関係者及び指導主事等を派遣し、授業づくりを実施し、教員の指導力向上を目指す。（H18～H19県単事業）</p>



頁	用語等	解説																																	
20	<p>・「体育学習テクニカルサポート事業」</p> <p>・「項目」：「新体力テストにおける全国平均と本県児童生徒平均の比較」の解説</p>	<p>小・中学校へ教育専門監及び高等学校教員等を派遣しチーム・ティーチング(T・T)を行い、児童生徒の技能の向上とつまずきへの対応を目指す。小・中学校に大学関係者及び指導主事等を派遣し、授業づくりを実施し、教員の指導力向上を目指す。(H20～H21国費「地域スポーツ人材の活用実践支援事業」)</p> <p>□新体力テストの検査項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【小学生】</th> <th>【中学生・高校生】</th> <th>検査項目数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 握力</td> <td>① 握力</td> <td>小男 48(8種目×6学年)</td> </tr> <tr> <td>② 上体そらし</td> <td>② 上体そらし</td> <td>小女 48(8種目×6学年)</td> </tr> <tr> <td>③ 長座体前屈</td> <td>③ 長座体前屈</td> <td>中男 27(9種目×3学年)</td> </tr> <tr> <td>④ 反復横跳び</td> <td>④ 反復横跳び</td> <td>中女 27(9種目×3学年)</td> </tr> <tr> <td>⑤ 20mシャトルラン</td> <td>⑤ 20mシャトルラン</td> <td>高男 27(9種目×3学年)</td> </tr> <tr> <td>⑥ 50m走</td> <td>⑥ 持久走</td> <td>高女 27(9種目×3学年)</td> </tr> <tr> <td>⑦ 立ち幅跳び</td> <td>⑦ 50m走</td> <td>計 204</td> </tr> <tr> <td>⑧ ソフトボール投げ</td> <td>⑧ 立ち幅跳び</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑨ ハンドボール投げ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ ⑧と⑨はどちらか選択</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【小学生】	【中学生・高校生】	検査項目数	① 握力	① 握力	小男 48(8種目×6学年)	② 上体そらし	② 上体そらし	小女 48(8種目×6学年)	③ 長座体前屈	③ 長座体前屈	中男 27(9種目×3学年)	④ 反復横跳び	④ 反復横跳び	中女 27(9種目×3学年)	⑤ 20mシャトルラン	⑤ 20mシャトルラン	高男 27(9種目×3学年)	⑥ 50m走	⑥ 持久走	高女 27(9種目×3学年)	⑦ 立ち幅跳び	⑦ 50m走	計 204	⑧ ソフトボール投げ	⑧ 立ち幅跳び			⑨ ハンドボール投げ			※ ⑧と⑨はどちらか選択	
【小学生】	【中学生・高校生】	検査項目数																																	
① 握力	① 握力	小男 48(8種目×6学年)																																	
② 上体そらし	② 上体そらし	小女 48(8種目×6学年)																																	
③ 長座体前屈	③ 長座体前屈	中男 27(9種目×3学年)																																	
④ 反復横跳び	④ 反復横跳び	中女 27(9種目×3学年)																																	
⑤ 20mシャトルラン	⑤ 20mシャトルラン	高男 27(9種目×3学年)																																	
⑥ 50m走	⑥ 持久走	高女 27(9種目×3学年)																																	
⑦ 立ち幅跳び	⑦ 50m走	計 204																																	
⑧ ソフトボール投げ	⑧ 立ち幅跳び																																		
	⑨ ハンドボール投げ																																		
	※ ⑧と⑨はどちらか選択																																		
22	<p>・「ライフスタイル調査」</p> <p>・「教科外体育」</p> <p>・「業前・業間運動」</p> <p>・「てくてくとくとくあるいて学校へ行こう」運動</p>	<p>児童生徒が生涯を通じて健康な生活を送るための基礎を培うため、秋田県教育委員会が平成9年から行っている、生活習慣・食生活・運動や遊びに関する抽出調査。(小・中学校：全県の約1/3の学校から小4～中3まで1学年1学級。高校：全日制県立高校の約1/3の学校から各学校全学年1学級。)</p> <p>学校教育法施行規則の教育課程で示されている各教科(体育)に対して、道徳・外国語活動・特別活動及び学習指導要領第1章総則3で示されている学校教育活動全体を通じた体育・健康に関する活動を総称したもの。</p> <p>学校における日課時間帯のうち、始業の前(朝)や授業の間(休み時間)において、計画的に行う運動遊びや縄跳び、ランニングなどの運動。</p> <p>児童生徒の安全を第一に考え、各学校や地域の実情に合わせた徒歩通学を奨励する運動。</p>																																	
23	・「複数校合同運動部活動」	複数校合同の運動部活動は、生徒数の減少等により、学校単独で運動部活動の継続に困難を来す場合、スポーツを行いたいという生徒の願いや意欲にこたえるために、交流可能な範囲の近隣校との合同部活動を組織して、運動部活動の継続を図るもの。																																	
25	・「県体育指導委員連絡協議会」	秋田県内の各市町村体育指導委員の代表者による連絡会議。事務局は県スポーツ科学センター内。 体育指導委員：「スポーツ振興法」に基づき、市町村の教育委員会が委嘱する(非常勤)。当該市町村におけるスポーツの振興のため、住民に対し、スポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導、助言を行う。																																	
26	・「指定管理者」	地方公共団体が、公の施設の管理を行わせるために、期間を定めて指定する団体のこと。																																	
27	<p>・「秋田県スポーツ賞」</p> <p>・「人見スポーツ賞」</p> <p>・「畠沢国体賞」</p> <p>・「辻ジュニアスポーツ大賞」</p>	<p>(財)秋田県体育協会が毎年行っている表彰制度で、功労賞・荣誉賞・有功賞・優秀指導者賞・栄光賞・国際優秀賞・国際奨励賞の各賞の総称。</p> <p>(財)秋田県体育協会が、その年の各種大会において光彩を放ち、県民に感動を与えた本県関係の選手やチームに対して贈る賞。 (故人見誠治元名誉会長遺族から贈られた寄付を基金として昭和53年に制定)</p> <p>(財)秋田県体育協会が、その年度の国民体育大会において優秀な成績を収めた個人及び団体に対して贈る賞。 (故畠沢恭一元会長遺族から贈られた寄付を基金として平成元年に制定)</p> <p>(財)秋田県体育協会が、故辻兵吉元名誉副会長遺族から贈られた寄付を基金として、平成21年度から制定した小中学生を対象としたスポーツ賞。</p>																																	
30	・「600名」	延べ参加選手数(競技種目が複数あり、一人で2種目程度エントリーする。実人数は350名程度)																																	



○第23期秋田県スポーツ振興審議会 諮問文



## 諮 問 文

秋田県スポーツ振興審議会会長 様

秋田県スポーツ振興審議会条例第二条に基づき、次のことについて諮問理由を添えて諮問します。

- 1 秋田県スポーツ振興基本計画（仮称）の在り方について

平成21年8月10日

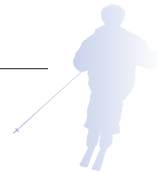
秋田県知事  
佐竹 敬



秋田県教育委員会







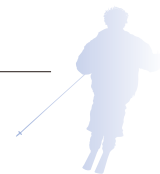
## 諮 問 理 由

スポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは大きな意義を有しています。

第22期秋田県スポーツ振興審議会答申では、県民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる豊かな「スポーツライフ」を創出するために、「子どものスポーツ活動の充実」、「生涯スポーツの振興」、「競技スポーツの振興」、「スポーツ環境の充実」の4つの視点から様々な提言がなされています。

また、本県では、スポーツを通じた秋田の元気づくりと地域の活性化、クラブチームをはじめとした競技スポーツ全体の向上などを図るため、スポーツ振興を県民運動として展開するとともに、スポーツ王国復活に向けた取組を強化し、新たに「スポーツ立県」を宣言することとしています。

以上のことから、スポーツ立県推進のための施策を体系的・計画的に展開するため、秋田県スポーツ振興基本計画（仮称）の在り方について、第22期秋田県スポーツ振興審議会答申の内容を踏まえながら、主に本県スポーツ全体のレベルアップとスポーツ人口の裾野の拡大のための方策を中心に検討する必要があります。



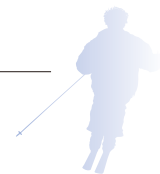
## ○第23期秋田県スポーツ振興審議会 委員名簿

## 第23期 秋田県スポーツ振興審議会委員名簿

(任期：平成21年7月9日～平成23年7月8日)

No.	氏名	職業・主な役職／関係団体	備考
1	浅利 純子	ミズノスポーツ契約社員 アトランタオリンピックマラソン代表 シュツットガルト世界選手権マラソン優勝	
2	木村 充	財団法人秋田県体育協会専務理事	
3	工藤 豊秋	財団法人秋田県総合公社県立体育館事務所所長	
4	佐藤 慶子	秋田県障害者スポーツ協会スポーツ推進員	
5	佐藤 靖	秋田大学教授	副会長
6	猿田 五知夫	猿田興業株式会社社長	会長
7	菅原 香織	秋田公立美術工芸短期大学助教	
8	杉原 義雄	秋田県中学校体育連盟会長 秋田市立秋田東中学校校長	
9	高野 正巳	秋田魁新報社社会部次長	
10	中村 栄喜	秋田県スポーツ科学センター所長	
11	野口 文夫	日立建機株式会社	
12	畠山 陽輔	秋田ゼロックス株式会社 トリノオリンピック複合代表	
13	三洲 龍太	能代市立湊城南小学校教諭	
14	水野 勇気	秋田プロバスケットボールクラブ株式会社 代表取締役社長	
15	宮原 章	松永製あん所 モスクワオリンピックレスリング代表	
16	村上 聖子	秋田県体育指導委員連絡協議会常任理事 総合型地域スポーツクラブクラブマネージャー	
17	村山 次夫	株式会社ダイヤプラザ秋田アスレティック事業部秋田フィットネス部担当部長	
18	米田 進	秋田県高等学校体育連盟会長 秋田県立秋田南高等学校校長	
19	若林 育子	秋田組合総合病院医師 日本体育協会スポーツドクター	

(50音順、敬称略)



## ○秋田県スポーツ振興基本計画策定までの経緯

平成21年

- 7月21日 「スポーツ立県」推進検討プロジェクトチーム設置（※知事部局・教育庁9課1チーム）し、秋田県スポーツ振興基本計画策定について検討、骨子案作成開始  
（以後平成22年2月までに6回のチーム会議を行い検討）
- 8月10日 知事及び県教育長から第23期秋田県スポーツ振興審議会に対して「秋田県スポーツ振興基本計画（仮称）の在り方について」諮問  
第1回審議会 計画骨子案説明、検討
- 9月2日 「スポーツ立県あきた」宣言式典
- 9月24日 秋田県議会9月定例会において計画骨子案説明  
～25日
- 10月29日 第2回審議会 計画素案検討
- 12月7日 秋田県議会12月定例会において計画素案説明  
～9日
- 12月21日 第3回審議会 答申案審議
- 12月25日 「秋田県スポーツ振興基本計画の在り方について（答申）」を、第23期秋田県スポーツ振興審議会猿田会長より県知事及び県教育長に手交

平成22年

- 1月8日 計画案パブリックコメント実施  
～2月8日
- 3月5日 秋田県議会2月定例会において計画案説明  
～9日
- 3月25日 「秋田県スポーツ振興基本計画～『スポーツ立県あきた』推進プラン～」策定

### ※「スポーツ立県」推進検討プロジェクトチーム

知事部局：総務企画部 総合政策課  
 学術国際部 学術国際政策課  
 健康福祉部 福祉政策課、長寿社会課、障害福祉課  
 生活環境文化部 県民文化政策課  
 建設交通部 都市計画課  
 地域振興局 秋田地域振興局福祉環境部健康づくり推進チーム  
 教育庁：総務課、保健体育課